声劇台本集：双極魔術の迷い人（これシリーズ名です。タイトル違います）

青朱白玄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
声劇台本集：双極魔術の迷い人（これシリーズ名です。タイトル違います）

【Ｎコード】
Ｎ９９４１Ｗ

【作者名】
青朱白玄

【あらすじ】
双極魔術の迷い人の声劇用台本。

弱いけど怖い敵（♂2～4　♀1～3　計5　被り3）（前書き）

「弱いけど怖い敵――声劇・双極魔術シリーズ第一話」↑これタイトルです＾＾；

調整したけどまだナレ無双気味。
これ以上、削れそうにないしなあ……。

できるだけルビ振ってますが、「読めないよ！」ってのあったら感想にでも書いてください。
（ルビはＩＥとＣｈｒｏｍｅなら表示されます。火狐は駄目でした）

ちなみに、独擅場（どくだんじょう）は「どくせんじょう」であってます。
独擅場の方が元々は間違いだったらしいです。
今では逆転してますが。
（納得できない方はどうぞググってくださいな＾＾；）

面白いと思ってくれたら本編を読んで、「ここを台本にして！」とかも感想で受け付けますんで。
本編はこちら。
ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ２７５０ｗ／

（とは言っても、台本にしにくいんですけどね……）

それ以外でも、ファンタジー系でリクエストあれば時間のあるとき

に作るかもです。
双極〜の外伝的エピソードでもいいですし。
ただし、恋愛ものと推理ものは勘弁してください。
※各種ご連絡は上のメニューの感想欄をお使いください。

弱いけど怖い敵（♂2〜4　♀1〜3　計5　被り3）

「弱いけど怖い敵」――声劇・双極魔術シリーズ第一話

登場人物

ルーシャ……♀15歳。業師（わざし）（盗賊に近い）にして奇術師。
可愛く振る舞おうとするけど気が強い。

マイク……♂♀20歳。山賊の毒使い。弱いけれど厄介な敵。童顔だけど成人男性。

ヴァン……♂17歳。主人公の（はずの）魔術師。ひねたお人好し。台詞少ない。

ノーム……♂?歳。地の精霊。お爺さんの姿。陽気な性格。台詞少ない。

ナレ……♂♀。アクションシーンは誤読してもテンポよくがいいかも。台詞多いです。

（被り推奨）

山賊A……♂28歳。モブ。

山賊B……♂25歳。モブ。

山賊H……♂36歳。モブだけど変態。

・セリフ量の目安
ナレ＞ルーシャとマイク＞＞＞ヴァン＞ノーム

・配役表
ルーシャ………♀：
マイク………♂♀：
ヴァン………♂：
ノーム………♂：
ナレ………♂♀：
（被り推奨、ヴァンとノームとマイク）
山賊A………♂：
山賊B………♂：
山賊H………♂：

『弱いけど怖い敵』（「双極魔術の迷い人」より）
ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ９９４１ｗ／１／

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

＜荒野から山賊のアジトまで＞

ナレ：魔法の地図を頼りに荒れた山道をルーシャは歩いていた。
　遠目にも分かる大人数の足跡。昨日のものだ。

ルーシャ：ちょっと早めに起きちゃって、
寝直したら次に起きたの正午だいぶ過ぎで、
道中で食べようとサンドイッチをキッチンに頼んだら
やたら時間かかって、商売道具を買うつもりで
ホッグを探した頃にはもういなくて、
はあ……街に帰る頃には夕方になりそう……
最悪、城壁登って街に入る必要あるかも……。

ナレ：ほどなく足を止める。前方に岩がある。
その岩の左右から回り込めば洞窟の入口だ。
やっと着いた。

ルーシャM：軽く済ませて早く帰ろう。

ナレ：楽勝だとルーシャはたかをくくっていた。
この時点ではまだ。

＜アジト＞

ルーシャ：こんにちは。素敵なお宅ですね！

ナレ：明るい口調であいさつしたルーシャを
剣呑（けんのん）な視線で応（こた）えた男たちが遠巻きに取り囲んだ。

山賊A：おい、この女を誰か知ってるか？

山賊B：こんな上玉（じょうたま）、頭（かしら）かレンダルのどっちかしかいねえだろ。

ルーシャ：おあいにくさま。どっちも会ったことあるけど、

ほとんど会話すらしてないし。

山賊A：……頭（かしら）に会った？　今何してるか知ってるか？

ルーシャ：教えてあげてもいいけど条件があるの。

山賊B：あん？　条件？

ルーシャ：もう少し質問をちょうだい。まとめて答えるから。

山賊B：ふざけてんのか？

ルーシャ：だって～、街からここまで退屈だったんだもん。

山賊A：じゃあ質問だ。お前誰だ？　何しにきた？
ここをどうやって知った？　誰のさしがねだ？

山賊H：オレも聞きたい。何カップ？

ルーシャ：くっ……あんた、楽には死ねないからね。

山賊H：だぁはは！　どーー見たってBないもんなあ！
そりゃぶち切れるよなあ！
ぎゃはは、マニア向けの姉ちゃん！　あんた最高だぜ！

ルーシャ：……最初に刺して、最後に殺す……。

山賊A：おーい、そのアホはいいからオレの質問に
答えてくれよ。

ルーシャ：逆順（ぎゃくじゅん）で答えてあげる。ヴァンのさしがね……
知らないだろうけど。
ここは魔法の地図で知ったの。
あたしが来たのはあんたたち始末するため。
あんたたちのリーダーは死体置き場。
そしてあたしは……ルーシャリエ、命を盗む風よ！

山賊B：捕らえるぞ！　頭（かしら）がどうなったのか、
他の奴らのことも、きっちり聞き出してから殺す！

ルーシャ：捕らえるのは無理～聞き出すのも無理～
殺すのはもっと無理～♪

ナレ：山賊たちは腰に二本ずつ差していた長剣のうち片方を
落とし、残った一本を引き抜いた。

ルーシャM：なんか……やな感じ……こういうときは先手必勝！

ナレ：ルーシャが消えた。

山賊H：いぎゃぁぁぁ！！！

ナレ：絶叫の中、別の三人の首から血液がふき出して倒れた。
次に現れたのは洞窟の天井を支える柱のかなり高い
場所だった。
誰も気づかぬうちに投げナイフを二本、
別々の男たちの足を狙って投げてから、
一番近い小柄な男の近くに飛び降り
ナイフを背後から首元に突きつけた。

ルーシャ：あれ？　あんた小さいわね？

マイク：うわぁぁぁぁ！！！

ナレ：それは少年と言ってもいい若者だった。
その肩をルーシャは左手でつかみ、膝裏を蹴って自分は
体ごと後ろに下がると、なすすべもなくあおむけに倒れた。

マイク：た、助けて！　殺さないで！！

ルーシャ：はぁ……命が助かったら、もうまじめに生きなさいよ？

ナレ：しきりに頷く若者を他の山賊たちが苦々しげに見下ろした。

山賊B：一気にかかるぞ！

ナレ：ルーシャめがけ殺到する山賊たち。
八人が同時ではなく、ひとりずつルーシャの目の前を
走り抜けるように斬りつけてきた。
典型的な波状攻撃だ。
三人目までうまく受け流したが、四人目の武器を
かわそうとして軽い怪我を負わされた。

ルーシャM：痛っ！　ヴァンの嘘つき！
このどこが一対三なのよ！

ナレ：五人目にはルーシャから突っ込んで行き、
すれ違いつつその首を正確に斬りつけ致命傷を負わせ、
意表をつかれて立ち止まったひとりの心臓を一突きにする。

山賊A：ちぃっ！　この作戦は駄目だ。囲むぞ！

ルーシャM：そうしてくれると助かる！

ナレ：ルーシャは少しだけ安心した。
　囲まれるならヴァンの言ってた三対一の法則から
　外れないはずだ。
　ひとりまたひとりと確実に倒していき、
　最後まで立っていた男の胸からナイフを抜いた。

ルーシャ：はぁ、はぁ、お待たせしちゃったみたいね。
　約束通りあんたの番が来ました……よっ！

ナレ：最初に腹と両足を刺され、倒れてうめいていた男に
　仲間の持っていた剣を振り下ろした。

山賊H：ごぼっ！　……貧乳の……くせ……に……（アドリブ推奨）

ルーシャ：はぁ、はぁ、はぁ、しんど、かった……あ、あれ？

ナレ：ルーシャはよろめいた。右足に違和感がある。

ルーシャ：あー、毒、か……効きが遅くて……助かった……。

マイク：と、思うでしょお姉さん。んくくひひひ。

ナレ：ルーシャは背後に殺気を感じて、前方に倒れて転がった。
　背中に鋭い痛みが走ったが、浅い。
　回転してぺたりと座り込んだ姿勢になった彼女の手は
　落ちていた別の山賊の剣を拾っていて、

後ろに倒れ込みながら正確に投げたつもりだったが
狙いは逸れ、童顔山賊の肩を裂いてその背後の壁に
刺さった。堅く奥歯を噛む。

マイク：毒が回ってきたねぇ。僕の勝ちみたいだね。
へへへ……ああ、僕のことはマイクって呼んで欲しいな。

ナレ：マイクはルーシャの腹に座った。

ルーシャ：ふぐぅ！　あ、ぐ……！

マイク：痛いでしょ？
僕の毒はね、動けなくはなるけど内臓とかには
影響しないし、痛みの感覚が弱まることもないんだよ。
すごいでしょ。
ねえお姉ちゃん、僕お腹すいちゃった。
お姉ちゃん美味しそうだね。女の人の肉って大好きなんだ。
薄く切って弱火で焼いて食べるの。

ルーシャ：なかなかいい趣味ね……。

ナレ：嫌な汗が流れるのを感じた。
マイクの邪悪な満面の笑みをにらみつけながら、
ルーシャは気づいた。

ルーシャM：そう……か……あたし……怖いんだ……
助けてよ……ヴァン！！

＊＊＊

ナレ：しゃき……しゃき……
　ルーシャリエはぼんやりした頭でその音を聞いていた。
　もし下に視線を向けていたら、たいまつの光を白銀色に
反射しているたくさんのそれが心を痛めただろう。
　縛られていた。木の椅子に座った状態で。
　そして一房、また一房、長い銀の髪が床に落ちていく。
　マイクはふと鋏を動かすのをやめた。
　ルーシャの背後からささやきかける。

マイク：お姉ちゃん、僕なんだか体がむずむずしてきたよ。
　そろそろ我慢できそうにないや。安心してよ。
　お姉ちゃんは少ししか僕の毒が入ってないから、
　首から上はちゃんと動くし、全身の感覚もちゃんと
　残ってる。そのまま楽しんでね。

ルーシャ：あたしは治まってきたから安心していい。
　問題を出すわ、あんたに傷つけた武器は誰のでしょう？

マイク：何それ？　時間稼ぎのふもり？
　わういけろもうまてらいっへ、はへ？

ルーシャ：ふうん、量が多いとそうなるんだ。
　さて、そろそろあんた、飛びなさい！

ナレ：ルーシャの両手が背後にいるマイクの頭をしっかり掴んだ。
　そして持ち前のばねで足から前方に高く飛び上がると、
　ひねりを加えながら全体重を利用してマイクをぶん投げた。
　動きを取り戻した彼女にとって縄抜けは簡単すぎた。
　マイクは三メートル近い高さまで飛んでから落ちた。

マイク：んげぶっ！

ルーシャ：ここからはあたしの独擅場。
まあ、毒だけはほめてあげる。

ナレ：頭から落ちて無様に足を投げ出しているマイク。
その右手がふところから何かを取り出した瞬間、
ルーシャは蹴飛ばした。

ルーシャ：そうよね。自分が作った毒の解毒剤ぐらい
持ってるわよね。

マイク：うう……。

ナレ：ルーシャは床に落ちている無残に切り離された
髪の房を振り返ってため息をつく。

ルーシャ：痛めつけても気が収まりそうにないし、さっさと……
痛っ！？

ナレ：ルーシャの左足のももに長い鉄串が突き刺さっていた。
マイクが彼女の足元に跪き、串をねじっている。

マイク：僕の毒が一種類だと思ったら大間違い。
これに塗ってあるのは即効性のやつでね。
お姉ちゃんの独擅場は、僕が使わせてもらうよ。

ナレ：視界がぐにゃりとゆがむのを感じた。
そのまま手さえつけずに倒れる。解毒剤の予備はない。
それに対し……マイクはずっと動きが良くなっていた。

服がはちきれそうなほどに筋肉が肥大している。
飲んだのは解毒剤だけではないようだ。

ルーシャ：解毒剤……飲んだのね……いつのまに……？

マイク：ああ、気づかないのもしょうがないよ。
だってさ、あらかじめ飲んでおいたんだもん、
遅効性の解毒剤。
絶望した？　もっと顔見せてよ。
お楽しみはこれからなんだからさぁ！

ヴァン：いいや、お楽しみはもう残ってない。

ナレ：マイクは慌てて声のした方、つまり背後を振り返った。
そいつは壁を背に立っていた。
まるで背後の壁が扉です、とでも言うような形で。

マイク：どこから入ってきた？　誰だよお前？

ヴァン：お前に説明してもその頭じゃ理解できないだろ。
後の方だけ答えてやる。お前らの頭のヘインを倒した、
魔術師のヴァン・ディールだ。

ルーシャ：ヴァン……！

ナレ：マイクは親指の爪を噛んだ。

マイク：……頭を？　倒した？
……嘘。嘘だ。頭を倒せる奴なんかいない！

ヴァン：いろいろと説明できることはあるがその気にならんな。
お前相手に魔術を使う必要もない。
ルーシャ、少しだけ待ってな。

ルーシャ：あんたね！
誰のせいであたしがこんな目にあったと思ってんの？
もしかして今、自分が格好（かっこ）いいとか思ってる？
馬鹿じゃないの？　誰があんたの助けなんか……

ヴァン：……おや。助けいらない？

ルーシャ：……まだそこまで言ってない。

ナレ：ふとルーシャは気づく。マイクがやけにおとなしい。
それだけではなく、爪を噛んだ姿勢で完全に
固まっていた。ヴァンの魔術なのは間違いなかった。

ヴァン：ふむ……つまり、オレの助けはちょっとだけ
欲しいけど、決着は自分でつけたいってことか？

ルーシャ：……そう思いたいなら思っていい。

ヴァン：じゃあオレはこいつを渡して使い方教えて、あとは見てる。
死にそうになるまでは何もしない。いいか？

ナレ：ヴァンは爪よりも小さな宝石を取り出して見せた。
それが何なのかルーシャには分からなかったが……

ルーシャ：馬鹿……いい。それで許してあげる。

ヴァン：よし。口に入れてやるから飲みな。手も動かないようだしな。

ルーシャ：んぐ……うぇ……これ飲むような物じゃないでしょ？

ナレ：ヴァンは答えずに自力で動けぬルーシャを運び、
近くの柱にもたれかかるようにして座らせた。

ヴァン：オレの後に続いて同じ台詞（せりふ）を繰り返す。行くぞ。
魔術師ヴァン・ディールの名において、
ルーシャリエ・ブリーズが命ずる。
我は僕（しもべ）を求むものなり。ノームよこたえよ。

ルーシャ：魔術師ヴァン・ディールの名において、
ルーシャリエ・ブリーズが命ずる。
我は僕（しもべ）を求むものなり。ノームよこたえよ
……あ、何か来た。

ヴァン：次だ。我は命ずる、ノームよ来たれ。

ルーシャ：我は命ずる、ノームよ来たれ！

ナレ：ルーシャの声に合わせて眼前の石床に直径十五センチほどの
丸い穴が開き、もこもこと土の塊（かたまり）がせり上がってきて、
塊は身長三十センチほどの白い髪とヒゲのふっくらした
老爺（ろうや）に姿を変えた。

ノーム：お呼びにあずかり参上（さんじょう）、参上〜！

ルーシャ：……これがノーム？

ヴァン：そうだ。ルーシャの命令を何でも聞く地の精霊だ。
魔法を使わせるのがいいだろう。
おすすめは石筍（せきじゅん）の呪文だな。

ルーシャ：せきじゅんって？

ヴァン：……たけのこでも通じる、かも……。
そろそろ止めておいた奴の時間が動き出すから命令しな。

ルーシャ：分かってる。
ノーム、あいつにたけのこ……な、なに今の！？
あたし何語喋ってた！？

ヴァン：短期契約石（たんきけいやくせき）の効果で精霊語。あまり気にするな。
ノームとの会話は勝手にその言葉になる。

ノーム：たけのこ？……筍（たけのこ）……ああ、石筍（せきじゅん）でございますね。
では。ホホイのちょい！

ナレ：ノームの近くの地面から石の氷柱（つらら）状のものが、
とがった部分を上にして瞬時に生えた。
間をおかず、十センチほどずれた場所でも同じように
石筍（せきじゅん）が突き出し、その現象がマイクにじりじり迫る。
爪を噛んだまま動きを止められていたマイクが動き出し、
石筍に気づいてあとずさりしたが、
それでは遅いと気づくとほぼ同時に足を貫かれていた。

マイク：うぎぃぃぃ！！

ナレ：しりもちをつく。
石筍はまだ止まらずにその足を次々刺していき、
尻にも突き刺さってようやく止まった。

マイク：ぐぅ、なにを……いつのまに……？

ヴァン：ルーシャ、もっとだ。

ルーシャ：ノーム、たけのこまたやって！

ノーム：はいな！　あーらよっ！

ナレ：再びあの現象が発生してマイクに近づいてくる。
マイクは慌てて立ち上がり、傷口から勢い良く血が
吹き出したが気にせず、石筍をよけて、
動けないルーシャに向かって走りだした。

ヴァン：今度は沼一歩だ。

ルーシャ：ノーム、沼一歩！

ノーム：ほいさ！　ドロドロぽん！

ナレ：マイクの片足が硬い床のはずの場所で十センチほど沈み込んだ。
当然のごとく前方へ顔面から倒れ鼻血が流れだす。
その足に石筍の激痛を感じ、慌てて這い逃れようとしたが、
さらに二本石筍が足を登ってきた。
膝に体重を乗せるようにして腕の力で無理に身を起こした。
石筍が膝頭の皿を割って止まった。

マイク：痛い痛い痛い、いぎぃあああああああ！！！

ナレ：わめきながら上着を力任せに引きちぎるマイク
その胴には無数の瓶がくくりつけられていた。
幾つかをまとめて指で引きはがす。
そしてひとつを投げつけた。
瓶は床に落ちて割れ、白い粉の煙幕になった。

ヴァン：ルーシャ、倒れ石を！

ルーシャ：ノーム！　倒れ石、急いで！

ノーム：承知！　ずずんとよろよろ、どーん！

ナレ：マイクは一瞬で床から生えた直径一メートル弱、
高さが天井に届いていそうな石柱を見上げた。

マイクM：呪文の名前が倒れ石なら、こいつが倒れてくるんだろう？
防ぐのは考えない。攻め続けて僕が先に殺してやる！

ナレ：瓶のふたつを煙の中心付近に投げる。
直後、頭に石柱が勢いよくぶつかってきて押し倒された。

マイク：ぐぇふ！

ナレ：石柱は胴体にものしかかり、瓶が次々割れた。
破片が突き刺さり、そこから染み入った毒が
灼熱のような痛みをもたらした。
石柱と床に挟まれて意識が遠くなり、呼吸も止まる。

だが同時に煙幕の中心で爆発が生まれ、
爆炎と衝撃が動けぬルーシャを襲った。

ヴァン：ルーシャ！　聞こえるか！？　繰り返せ！
五回でも六回でも繰り返せ！　連続して倒れ石だ！

ルーシャ：ゴホゴホゴホッ！
ノーム、倒れ石、どんどんやっちゃって、
マナ使いきるまで！

ノーム：合点！
でも姐さん、おいらは自分の能力で
マナが減ったりやいたしません！

ナレ：ルーシャは違和感を覚えて自分の体を見た。
煙が薄れてきて見えてきた数カ所の肌や服に、
黒い炎がまとわりついているが熱くはない。
だが炎を通して見えるのは、どす黒く変色していく肌だった。

ルーシャ：なんかやられた！
ヴァン、どうしよう、次はどうしたらいい！？

ヴァン：奴の最期を見届けな。終わったら全部治してやるよ。

ルーシャ：ノームはどうする？　いくらでも倒れ石とか使えるみたい！

ヴァン：全部お前のマナを借りてやってる。
精霊が直にマナを操ってるから消費量は通常より
ずっと少ないが、これ以上、呪文を使わせるだけのマナは

お前に残っていない。
あれで勝負が決まる。粘ったら奴の勝ち。

ルーシャ：……あたし、負けるの？

ヴァン：勝ちたいんだろ？

ルーシャ：絶対あいつには負けられない！

ヴァン：じゃあ何が何でも勝て。オレもお前に賭ける。

ルーシャ：分かった。ノーム！

ノーム：姐(あね)さん、姐さんにはもうマナが……

ルーシャ：一緒に祈って！

ノーム：……へいほー！　うんばややかやか！

ナレ：マイクを押し潰した石柱が転がって視界が開けた。
そこにまず一本、それから二、三、四、五、六、七本の石柱が
次々と立ち上がった。
マイクはあざけるように笑った。

マイクM：この攻撃の弱点は、遅さだ。
体を強化している今の僕なら余裕で避けられる！

ナレ：両手を床に踏ん張って起き上がろうとした。
だが、前からそこに生えていた石筍(せきじゅん)が手のひらを貫(つらぬ)いた。
あせったが、構わずその手に体重を込めてあまりの痛みに咆(ほう)
こう

哮をあげた。

マイク：あぎぃぃぃぃぃぁぁぁぁ！！！

マイクM：くそ！　起き上がれない！

でも、あの女は腐食炎で燃え腐らせている。

あいつが死んで、僕はかろうじて生き残る。

絶対食ってやる！

腐っちまった場所も全部、食ってやる！

そうだ、勝つのは……！！！

ナレ：七つの石柱が重なりあい崩れながら降ってきた。

その下敷きになったマイクの意識が途切れがちになる。

連続する衝撃と共に重さが増大してゆき、圧迫が強くなる。

激痛が少しずつ遠くなる……。

ルーシャ：あ、あれ？

ナレ：ルーシャの体のあちこちを焼き腐らせていた

黒炎が急に消えた。

そして変色した場所がかすかに光りながら、

健康な肌の色を取り戻していった。

ルーシャ：ヴァン……あたしは……

ヴァン：終わったよ。全部な。お前の勝ちだ。がんばったな。

ルーシャ：……でもあたし、結局ノーム頼りで……

ヴァン：ノームの強さは召喚した者……今回ならルーシャの

精神的な強さで変化する。あれはお前の戦いだった。

ルーシャ：そっか……ノーム！　ノームは？

ヴァン：役目が終わって、疲れたんだろう。帰ったよ。
　でもここにも見えない形で存在している。
　お礼したいなら言えば聞こえるぞ。

ルーシャ：分かった……ノーム、ありがとう。

ナレ：ノームの陽気な挨拶（あいさつ）が聞こえた気がした。

（終）

弱いけど怖い敵（♂2～4　♀1～3　計5　被り3）（後書き）

お疲れさまでした！

もし気に入っていただけましたら、原作小説「双極魔術の迷い人」シリーズもよろしくお願いします。

ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｓ４２３２ａ／

原作との微妙な（？）違いを探してみるのもオツかも知れませぬ。

「掛け合い二連続」――物書き気取りの雑記群より（前書き）

「掛け合い二連続」――物書き気取りの雑記群より
→これがタイトルですよ～～～～！！！

「掛け合い二連続」――物書き気取りの雑記群より

「掛け合い二連続」――物書き気取りの雑記群より
→これがタイトルですよ～～～～！！！

※青朱白玄は、あおあけ、はくろ、と読みます。

○役表

青朱……♂：
メルー…23歳♀：
パティ…12歳♀：
白玄……♂：

○本日のお客さま

青朱「いらっしゃい」

メルー「作者様、こちらは恥ずかしながら土産物として持参……」

青朱「ま　た　こ　の　展　開　か　！　ていうかお前誰だよ！？」

メルー「いえ、ですから作者様が今日お書きになった……」

青朱「その時点で問題ありありだってことに気づけよ！　まだ作中

に登場してないキャラなんだぞ！？　出てくんな。帰れ！」

メルー「まあそう興奮なさらず……こちら＊＊＊名物の、マタタビでございます」

青朱「吾輩は猫じゃねえ！」

メルー「では万人受けする、山吹色のお菓子はいかがですか？」

青朱「いらんわい！　いや、リアルで積まれたら欲しいと思うけど二次元世界でもらって何になる！？」

メルー「では番人受けする白金色の……」

青朱「誤字で遊んでるんじゃない！　何だよ番人受けってのは！？」

メルー「ご覧になっているあなた、決してB……」

青朱「やめい！　本当に何しに来たんだお前は？」

メルー「いえ、わたくし、がんばっていたと思うのですが……」

青朱「ノーコメントだ。ネタバレになりそうなことは一切言わんぞ」

メルー「器の小さい……」

青朱「小さくて結構。要するに褒めて欲しいんだな？　よしよし。ほら、もう帰れ」

メルー「レオノワより扱いが酷い。作者殿はロリコン、と……」

青朱「レオノワも問題だったが、出番前に出てきたお前とは比べ物にならんだろう」

メルー「分かりました。では最後にひとつだけ。募集いたします。作者と漫才をさせたいキャラ。メッセージにてお送りつけください。作者の野郎が対処に困るほどのご応募をお待ちしております」

青朱「……満足か？」

メルー「はい」

○ダブルティメット・マジック・レディオ

パティ「ダブル・アルティメット・マジック・レイディオ、びみょうに略してダブルティメット・マジック・レディオ！　今日もあたし、パティと」

白玄「一応作者しています……青朱白玄（あおあけはくろ）がお届けします！　……何これ？」

パティ「えっと、ディレクターさんに原稿渡されたから、その通りにやってるの……」

白玄「誰だよディレクター……」

パティ「今日も元気にお送りしますよ！　まずは、お便りのコーナーからです！　いつもたくさんのおハガキ、ありがとうございます

！」

白玄「いや、来てないだろ、ハガキとか……メールもメッセージも感想すらもほとんどないぞ」

パティ「ディレクターさんが来てるって言ってたの。どこでもやってることだよ、あおあけくん、とうしょがすくなかったらすたっふがそのばでつくるくらいはね、だそうです」

白玄「少ないも何も、ゼロなものを水増しってのは……いいのかなぁ……」

パティ「最初のおハガキです。ラジオネーム（以下ＲＮ）濁流の青龍さん。
質問です。登場人物を考えるときにモデルとかいるんですか？　ホッグとか、なんだかいそうでいないようなキャラクターだなと思いまして……
だって。どうなの白玄さん？」

白玄「モデルは基本いませんが、ヴァンは性格的な部分で自分に近いものがありますね。意図的に変えてる部分も多いですけど。どの登場人物も、最初は、だいたいこんな感じ、と、立場とかに似合った特徴を少しだけ与えておいて、そのうちに特徴が増えていく、と言うのが多いです。と言っても、キャラクター描写はあまりできていないので、今後の課題ですけどね」

パティ「次〜。ＲＮ．プリンス・オブ・朱雀さん。
質問です。ストーリーはどうやって考えていますか？　考えるときによく使う場所とかありますか？
あればぜひ教えてください。

って書いてあるよ」

白玄「んー、けっこう、流れに任せるとこがあるかも。最初にプロットっぽいものを作って、だいたい話はこういうエピソード、こういうエピソード……を含めて作ると決めてから書き始めます。書き始めると自然と何だかよく分からない小道具……パティの首飾りの石とかが出てきて、話を書き進めていく内に、あ、これもしかしてここで使えるんじゃね？　みたいにして小妖精の月が誕生とか。まあ、いつもいつもそううまく行かないですけどね。ボツになることも多々あります。考えるときに使う場所は布団、と言いたいんですが、最近は寝たり起きたりが億劫で、パソコンの前でぜんぶやってる感じですかねー」

パティ「三枚目行きます。RN．巨人殺しの白虎さま、さん。評価がつきましたね。おめでとうございます。このまま増えてランキングも上がるといいですね！
応援しています！
白虎さま、ありがとー」

白玄「いや、ありがたい話です。投稿し始めてから1か月でようやくの初評価ですからねぇ。嬉しかったですよ。でもあんまり感想くれの評価くれの言うつもりはありません。ランキングも外部の方が当てになったり……オホン。アルファポリスさんで評価が一週間で１５００とか行くと、無料で出版してもらえるらしいんですけどね。気が遠くなる話です」

パティ「5段階評価で、文章4、ストーリー4だっけ？　どうせなら5が欲しかった？」

白玄「いや、5だと何となく、あ、べた褒めされてるけど、あんま

り欠点とかには目を向けてくれてないのかな、というか、馴れ合いっぽい感じがするし。だから４で大満足。４に値するかどうかもまあ疑問は残るんだけどね。まだ向上の余地があるっていいと思うし」

パティ「次行くね。ＲＮ・翻訳したるぞカモン@玄武さん。更新のペース、もうちょい早くなりませんか？だって～。やっぱ週一って遅いよ～」

白玄「すみません、もう少し先まで下書きはできてて、ある程度、推敲もしてはありますけど一気に出すのはどうも不安でして……。書くペース考えると、やっぱり週一が精一杯な気がします。申し訳ありません」

パティ「毎週火曜日の朝６時更新だよね？　６時台に読んでくれてる人もいるよね？」

白玄「うん……すごく嬉しいです」

パティ「でも、なんでそんな時間なの？」

白玄「あまり深い意味もないんですけどね。更新された連載小説に長く掲載されそうな時間帯もちょっとリサーチしてみたけど、結局流れるペースが早いからいつだって同じだと分かったし」

パティ「皆さんおハガキありがとうございました！　さて、次はフリートークのコーナーです！」

白玄「まだ続くのね……」

パティ「白（はく）ちゃんって自作自演好きだよね！」

白玄「は、白ちゃん……？　まあ、ネタがなかったりしたときに衝動的にやりたくなったりとかするけど」

パティ「もしさ、もし本当にリアクションがあったら、それをラジオで発表したり、する？」

白玄「するする！　いや、でも、ないんじゃないかなぁ、これまでの流れ的に……（苦笑）」

パティ「分かんないじゃん！　あ、話は変わるけど、なんか台本？　同じ作者の作品にあったけど、あれって何？」

白玄「ああ、声劇って声だけでお芝居するものがあるんだ。前はよく自分でも参加してたんだけど、声劇の台本に起こしてやってもらったら楽しそう、と思ってね」

パティ「けっこう強引に押し付けてるでしょ？」

白玄「あはは……否定はできないかなー。でも最近は自重してるよ。それなりに」

パティ「ふうん。まだ書くの？」

白玄「うーん、本編を少しでも進めたいのと、いまいち台詞配分のいい場面が見つからないのとかあって、ちょっと止まってる。書きたいけどね」

パティ「本編進めてよ～」

白玄「ですね（苦笑）」

パティ「あ、時間！　と、いうわけで、今日の放送はここまでです。聴いてくださってありがとうございました！　パーソナリティは、レンダル一途の魔法少女パティと」

白玄「恋なんてもはや異次元の話、青朱白玄でした……これひでえな……」

パティ「じゃあ、次回をお楽しみに！　またね～！」

パティと山賊（♂3　♀2　指定モブ被り3）（前書き）

「パティと山賊」――声劇双極魔術第一話
→
これタイトルです！

※1：このシリーズはボイドラサーチに登録していきますので、たくさんの方のご利用をお待ちしています。

※2：役表は台本の約説明の下に、コピペしてそのまま使える形で用意してあります。ご利用ください。

※3：台詞を言いやすく変更する方が割とおられますが、できたら元の台詞のニュアンスを正確に読み取ってからそういうアレンジはお願いしたく思います。その言い回しで書いている意味というのは多かれ少なかれあるはずですので。

面白いと思ってくれたら本編（小説版）も読んでみてください。
本編はこちら。
ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ２７５０ｗ／

※各種ご連絡は上のメニューの感想欄をお使いください。

（あれ？　パティこんな台詞少なかったっけ？）

パティと山賊（♂3　♀2　指定モブ被り3）

「パティと山賊」――声劇双極魔術第一話

３２０台本。１５分。

・登場人物

台詞数（※被りと合計した数）

←

２１　パティ……♀１２歳。この話での主人公。山賊に売られる。

３６　レンダル……♂４０代。山賊サブリーダー。凄腕の元傭兵。叫び可能。

実は貴族の六男。それゆえどこか堅い。

２０　ドラス……♂３０代。山賊。ミレイユを慕っている。

３０　ミレイユ……♀２０代。山賊。鞭が好き。叫びあり。

１８　ヘイン……♂６０代。山賊リーダー。頭（かしら）。超戦士。

おっさんのまま老けた感じ。口数少ない。

モブ（被り指定）

父親／ヘイン役……♂４０代。パティの父。

傭兵／ドラス役……♂３０代。台詞ひとつ。

女戦士／ミレイユ役……♀３０代。叫びあり。凄腕の斧使い。

※台詞数を気にするなら、女戦士をパティ役がやるのもありです。

・役表

「パティと山賊――声劇双極魔術第一話」
ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ９９４１ｗ／３／

パティ♀……
レンダル♂……
ミレイユ／女戦士♀…
ドラス／傭兵♂……
ヘイン／父親♂……

――――――――――――――――――――――――――――――――

＊オープニング＊

ヘインＭ：オレはヘイン。山賊のリーダーだ。本名かどうか、だと？　くだらんことを聞くな。
　ちまちまと小銭を稼いでいるオレたちだが、たまに面白い奴に出くわすこともある。
　そのせいで何が起きようと、面白けりゃオレはかまわんのだが。
　今回の話は、パティって小娘を手下が買ってくるところから始まる……。

＊深夜、パティの家＊

パティ：や！　離して！　お父さん！　お母さん！

父親／ヘイン役：ぐずぐず言うな！　この人たちと一緒に行くんだ！
後はお願いします。

レンダル：おう。ドラス、かついどけ。

ドラス：へいへい……おら！　暴れんな、このガキ！

パティ：ちょっと！　降ろしてよ！　痛いってば！

ミレイユ：ふふ、元気な娘（こ）。楽しみが増えたわ。

＊家を出る。夜の村はずれ、森沿いを歩く＊

ドラス：痛てえな、じたばたすんな！　おいクソガキ、大人しくしやがれ。
お前は売られたんだよ！

パティ：売られた？　あんたたち、なんなのよ？

レンダル：山賊で人攫（ひとさら）いで強盗で、今回はまあ、人買（ひとか）いだな。
名前はパティだったな？

パティM：売られた……お父さんがくれたこの白い石の首飾り……
これも、
あたしを売ったお金で買ったんだ！
こんなもの……いらないよっ！！（森に投げる）

ミレイユ：おや、何か飛んでいったね？

ドラス：気にするようなものでもねえと思いますぜ、姉御（あねご）

ヘインM：ここでパティが森に捨てた小石……これがまた妙な代物だったんだ。

何しろオレを……おっと、その先はまだ言わん方がいいな。

とにかく、覚えておきな、白い小石だ。

レンダル：泣き喚（わめ）くかと思ったが大人しくなったじゃないか。

おいドラス、肩じゃなくて背負（せお）ってやりな。

ドラス：めんどくせえなあ……あー、わかったよレンダルの兄貴。背負（せお）やぁいいんだろ？

パティ：自分で歩くから、降ろして。

ミレイユ：そのお願いは無理ね。それにしても……本当にかわいい。お人形みたい。

ちょっと爪を剥（は）いだりしたらどんな……

レンダル：おい！　大切な商品に傷なんかつけてみろ、

お前の首が胴体と泣き別れする日が来るぞ。

ミレイユ：おお怖い。それでもあんた山賊なの？

まるで騎士みたいに堅物（かたぶつ）じゃない。

レンダル：けっ。お前みたいなのは虫唾（むしず）が走るんだよ。離れて歩け。

ミレイユ：つまらない男。

パティ：……あの、あたし……。

レンダル：気にするな。手出しはさせねえよ。

パティ：帰りたい……。

レンダル：……なあパティ、お前はいいことをしたんだぜ。
お前を売った金のおかげで弟たちはちゃんと飯を食えるんだ。
だが帰っちまうと、その金を返してもらうことになる。
分かるか？

パティ：うん……。あたし、これからどうなるの？

レンダル：まだ決まってないが、どっかの金持ちに買われるんじゃないか？
そのあたりは頭（かしら）が決める。オレたちには分からん。

パティ：そっか……。

レンダルM：いけねえな。商品だってのにどうもこの娘には肩入れしちまいたくなる。
……やっぱり妹と似ているせいか……肩までの金髪に、声までよく似てやがる
……チクショウ！

＊山賊のアジトの洞窟＊

パティM：アジトの洞窟は湿った臭いが染み付いたところだった。外の光は射し込まない。
もう何日になるだろう？　他の子たちも誰も口を利かない。
ここは、そういうとこなんだ。

ドラス：おら、飯だ！　残したっていいことはねぇぞ。残さず食いやがれよ！

ミレイユ：ドラス、パティはどこ？

ドラス：姉御（あねご）、あの娘（むすめ）には関わらない方が……

ミレイユ：どこ？

ドラス：……左奥です。

ミレイユ：パティ、ここにいたの。ねえパティ、お姉さんね、他の子があんまりつまらないから
どうしてもパティと遊びたくなっちゃったの。

パティ：……

ミレイユ：ふふ。強情な娘（こ）って好きよ。パティは確か12歳よね？
男と女の話に、興味はない？

レンダル：おい、何をしてる！？

ミレイユ：……チッ。ちょっと話をしようとしてただけよ。

レンダル：消えろ。

ミレイユ：……パティ、また後でね。

レンダル：よぉパティ。どうした？　あんまり元気がねぇな。

パティ：元気でいられると思う？　捕まってるのに。

レンダル：そいつはそうだな。

パティ：夢を見たの。助けが来る夢。

レンダル：……そんな夢は、忘れちまった方がいい。

パティ：助けてくれたのはね、レンダルだったよ。

レンダル：……

パティ：……ほんとだよ。怒った？

レンダル：いいや……少し、オレの昔話をしようか。拒否は認めん。

パティM：レンダルは都合が悪くなるとすぐ昔話を始める。
　でも私は、それが嫌いじゃなかった。

レンダル：あれはオレがまだ傭兵を始めて間もないころだった。
　女戦士ってのと初めて戦ったんだ。
　なめてかかったらとんでもないしっぺ返しを食らった……

＊回想・砦の制圧戦＊

傭兵／ドラス役：ゲハッ！　この……ア……マ……。

女戦士／ミレイユ役：次にこの斧のサビになるのはどいつだ？

レンダル：おもしれえ、できるもんならしてみろよ。

女戦士／ミレイユ役：お前だな。雷火一閃（らいかいっせん）！！

レンダル：くっ！　受け流しても剣を持ってかれそうに！　本当に女か！？

女戦士／ミレイユ役：昇竜三旋（しょうりゅうさんせん）！！！

レンダル：っとぉ！　敵の目の前で回転だぁ？　隙だらけ、おらっ！

女戦士／ミレイユ役：狙い通り！

レンダル：剣だと！？　やべ、手が痺れて……

女戦士／ミレイユ役：隙だらけはお前だ！　石柱斬（せきちゅうざん）！！！

レンダル：おりゃ！　へへ、武器は剣だけじゃねえぜ？

女戦士／ミレイユ役：ぐ！　蹴って間合いを……！！　だったらこれで……波涛連斧（はとうれんぶ）！！！

レンダル：ぐぅ！　っとぉ！　ぬあ！？　ちぃっ！！
……はぁ、はぁ、大重量の斧の往復斬撃……付き合ってられるかよ！
お？　へへ……聞けよ、この歓声。勝どきからしてあんたらの負けだな。
さっさとずらかった方がいいぜ？
女戦士／ミレイユ役：クソ！　そのツラ、忘れんぞ！！

＊回想終わり＊

レンダル：まあ、勝負にゃ負けたが戦にゃ勝ったってな、そんな話さ。
パティ：その人とまた会ったの？
レンダル：ああ。今度は味方同士でな。
酒の勢いで賭け試合になったが、そんときゃオレの方が上になってた。
さて、退屈な話はこのへんでしまいだ。
パティ：また続き、聞かせてくれる？
レンダル：気が向いたらな。

＊頭の部屋＊

ミレイユ：納得行かないよ！　なんで頭はレンダルに甘いのさ！？

あたいの方が仲間になったのは早かったじゃないか！

ヘイン：強いからだ。だからオレの右腕にした。文句があるか？

ドラス：それにしたって、レンダルはつけあがってる！
あいつが睨(にら)んだだけで女も金目のもんも、ひとつ残らず没収だ！

ヘイン：分配はしてるだろう？

ドラス：女は分配してねえよ！

ヘイン：ドラス……そんなに文句があるなら、直接言え。

ドラス：だから言ってるじゃないすか！

ヘイン：オレにじゃない。レンダルにだ。

ドラス：……そ、それは……

ヘイン：できないなら吠えるな。

ミレイユ：クソが！　あたいは言ってやる！　いいや、それだけじゃすまない！　決闘だ！

ヘイン：……好きにしろ。少しは面白いものを見せろよ。

＊洞窟の外、夜のかがり火を山賊が囲んでいる＊

レンダル：本気か？

ミレイユ：当たり前だ！　手ぇ抜きやがったらぶち殺す！

レンダル：無理だな。

ミレイユ：この野郎！　手を抜かなくてもぶち殺す！！

ヘイン：吠えるのを見てたってつまらん。始めろ。

ミレイユ：そら、踊りな！　サイドワインダー！！

レンダル：足狙いか、くだらん。

ミレイユ：消えた！？　く、後ろか！　それも跳躍（ちょうやく）一回で！！

レンダル：剣槍十刺（けんそうじゅっし）。

ミレイユ：ちぃっ！　スティンガー！！

レンダル：今度は腕か？　鞭が縮むぞ？

ミレイユ：くっ！　本当に切りやがった……！！

レンダル：闇疾風（やみはやて）！！

ミレイユ：う……あ……

ドラス：一瞬で近づいて喉元に剣先……終わったか……。

レンダル：頭？

ヘイン：……ふん。つまらん見世物だった。

ミレイユ：も、もう一度、チャンスを……頭！

ヘイン：殺れ。

ミレイユ：か……は……。

ドラス：姉御……。

＊半月後、頭の部屋＊

レンダル：頭……失礼します。

ヘイン：どうした？

レンダル：ドラスが買い手を見つけました。

ドラス：ゲーリックって商人です。ひとり金貨４０枚で話をつけやした。

ヘイン：まあ、よくも悪くもない、か。病気のものはいないな？

ドラス：へい。嫌がっても飯を食わせてやしたから。

ヘイン：今日の内に連れて行く。オレも久しぶりに街に出よう。それにしても、つまらんな。

ドラス：街に行けば頭（かしら）に付いてくる女はひとりやふたりじゃねえでしょうに。

ヘイン：そういうことじゃあない。……まあいい。

＊アジト内、牢＊

ドラス：おう、起きろ。飯だ。今日は多いが残すなよ。

パティ：なんで多いの？

ドラス：……けっ。レンダル様に教えてもらうんだな！！

ヘインM：夕方が近づくにつれ、洞窟内は慌（あわただ）しく出発の準備を始めた。

準備は問題なく終わり、オレたちは日没前には商品をつないでアジトを出た。

＊荒野＊

パティM：あれ？　なんだろ？　結ばれた手首に何か挟まってる……。

うーん、よいしょ、よいしょ、あ！

ヘインM：パティの手の中に転がり込んだのは……覚えているか？

森に投げたあれだったんだ。

パティM：な、なんで！？　首飾りの白い小石……捨てたのに……
なんで、
あたしの手の中に戻ってきたの……？

続く

山賊にしては強すぎる！（♂4　♀2　指定モブ被り3）（前書き）

「山賊にしては強すぎる！」――声劇双極魔術第二話
→
これがタイトルです！！

※1：このシリーズはボイドラサーチに登録していきますのでたくさんの方のご利用をお待ちしています。

※2：役表は台本の約説明の下に、コピペしてそのまま使える形で用意してあります。ご利用ください。

※3：台詞を言いやすく変更する方が割とおられますが、できたら元の台詞のニュアンスを正確に読み取ってからそういうアレンジはお願いしたく思います。その言い回しで書いている意味というのは多かれ少なかれあるはずですので。

面白いと思ってくれたら本編（小説版）も読んでみてください。
本編はこちら。
ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ２７５０ｗ／

※各種ご連絡は上のメニューの感想欄をお使いください。

山賊にしては強すぎる！（♂４　♀２　指定モブ被り３）

「山賊にしては強すぎる！」――声劇双極魔術第二話

４２０台本。２５分。

・登場人物

台詞数（※被りと合計した数）

←

５５　ヴァン……♂１７歳。本作の主人公。魔術師。生真面目だがときどき口調が乱暴に。理性と論理で動くタイプ。感情表現は苦手ではない。

４５　ルーシャ……♀１５歳。業師（わざし）で奇術師。ヴァンの相棒。業師とは盗賊に似た多技能者。

４０　シュタイン……♂２０代。謎の魔術師。戦力外。女性でもできるよ。解説者かおまいは。

１１　パティ……♀１２歳。奴隷として売られそうな少女。

２９　レンダル……♂４０代。山賊サブリーダー。凄腕の元傭兵。叫び可能。実は貴族の六男。それゆえどこか堅い。

２０　ヘイン……♂６０代。山賊リーダー。頭（かしら）。超戦士。おっさんのまま老けた感じ。口数少ない。

モブ（被り指定）
全知（ぜんち）／パティ役……♀年齢なし。呪文のレスポンス。
ホッグ／レンダル役…♂３０代。山賊雑魚。髭面小太りの小男。
ドラス／ヘイン役……♂３０代。山賊雑魚。がっしりした体躯。

・役表

「山賊にしては強すぎる！」――声劇双極魔術第二話
ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ９９４１ｗ／４／

ヴァン♂……
ルーシャ♀……
シュタイン♂……
パティ／全知♀……
レンダル／ホッグ♂…
ヘイン／ドラス♂……

※ヴァンＭＴとルーシャＭＴは、心話（マインド・トーク）の呪文、いわゆるテレパシーです。

――――――――――――――――――――――――

＊オープニング＊

パティＭ：あたしたちは山賊に連れられて、街に向かっていました。
そのとき、意外な人たちが出会っていたんです。
私の運命を大きく変える人も、その中にいたんです。

＊大草原＊

ルーシャ：ねえ？　路銀どうしようか？　宝石まだ残ってる？

ヴァン：いや、二回もひどい数の敵を相手にしてマナが足りなくなったから、
　ぜんぶ灰になっちまった。

ルーシャ：あーあ、もったいない。なんでせめて宝石として残さないのよ？

ヴァン：しょうがないだろ、そうしないと死んでたんだ。
　それにマナを溜める宝石は普通のより安いぞ。買うと高いけどな。

ルーシャ：で、結局どうするの？

ヴァン：近くに暗殺者に狙われてる貴族令嬢とかいたら楽なんだがな。
　そうじゃなくても何か金になる事件とか、探してみるわ。

シュタイン：物騒な話をしてるねえ。そんなにお金に困ってるわけ？

ヴァン：どこだ！？　出てこい！

ルーシャ：隠れてるわけじゃないから出てこいは余計かな。ヴァン、上。

シュタイン：高いところからどうも。

ヴァン：……飛行（ウィング）の呪文かよ。杖にローブ、あんたも魔術師だな。
　　で、誰だ？　オレたちに何か用か？

シュタイン：僕はシュタイン・シュリーガー。仲のいい友達はシューって呼ぶよ。
　　で、用があるのは君たちの方だと思うけどね。

ルーシャ：まさか、敵！？

シュタイン：え？　なんでそうなるかなあ。
　　敵なら挨拶（あいさつ）なしで攻撃とかしてきそうなもんじゃない？

ルーシャ：いろんなのがいるからそうとも言えない。

シュタイン：僕はただの旅の魔術師。
　　で、お金に困ってる君たちに耳よりな話を持ってきたわけだけど、
　　いらないならここでサヨナラ、かな？

ヴァン：まあ待ってくれよ。いきなりの敵呼ばわりは悪かった。
　　オレたちはちょいと殺伐（さつばつ）とした旅に慣れちまってるんだ。
　　唐突（とうとつ）に見知らぬ相手に声をかけられて、
　　無条件に仲良くなんてしてたらあっさり殺されかねない、
それくらいにな。

シュタイン：ふうん。分かったよ。で、今の僕の信用は？

ヴァン：判断は話を聞いてからってなとこだな。

シュタイン：ＯＫ。話を聞いてくれるならいいや。
北西の方にニーズって街があるのは知ってる？
そこへ続く東の山道があるんだけど、
そこを山賊たちが奴隷として売るための子供たちを連れて歩いてるんだ。
お金もそれなりに持ってるんじゃないかな。君たちが強いこと、前提だけどね。

ヴァン：山賊に強い奴がいるわけか。

シュタイン：どうだろうね？　そこまでは知らないよ。
弱かったらそもそも話にならないってだけ。

ルーシャ：（小声）どうするの？　こいつ、露骨（ろこつ）に怪しくない？

ヴァン：（小声）露骨（ろこつ）すぎるからかえって嘘とは思えない。
完全に信用できるとは言わないが、とりあえず今すぐ敵対する必要はないだろう。

ルーシャ：ねえ、どうやって山賊たちを見つけたの？

シュタイン：遠見（スコープ）の呪文を使ったんだ。
ちなみに君たちもそのおかげで見つけられた。

ヴァン：じゃあ三人で共同戦線と行くか。よろしく頼む。

シュタイン：やだなあ。僕は戦力にならないよ。
戦闘で役に立ちそうな呪文は万能結界（フルプロテクト・フィールド）くらいだしね。

ヴァン：あ……あの呪文かよ……。

ルーシャ：フルプロ……？　何それ？

シュタイン：物質もエネルギーも魔法も、なんでも防ぐ万能の結界だよ。

ルーシャ：すごいじゃない。

ヴァン：ただし、使ってる間は自分の魔法も外に届かないし、移動したり敵を殴ったりもできない。あれだ。亀が甲羅（こうら）に隠れるみたいなもんだ。

シュタイン：だから、分捕（ぶんど）り物（もの）の分け前よこせとかせこいことも言わないよ。うちは資産家でお金には困ってないからね。

ルーシャ：そんなこと聞いてないし。あんた、結局何がしたいの？

シュタイン：せっかく旅に出たんだから、いろいろと面白いものを見聞きしたいってだけだよ。ところで、街に近づきすぎる前に向かったほうがいいと思うよ。

ヴァン：そうだな。ルーシャ。

ルーシャ：お嬢様、でしょ？

ヴァン：……お嬢様。

シュタイン：うわ、お姫様抱っこ！

ヴァン：飛ぶぜ。＜力強き風よ、我が翼となりて空へ導け――飛行（ウィング）＞

シュタイン：速！　おーい、置いてかないでよ～！！

＊荒れた山道＊

ドラス／ヘイン役：おーら、しっかり歩けよ～。疲れたとか抜かしたらぶち殺すからな～。

レンダル：無闇（むやみ）に脅（おど）すな。疲れたら言えよ！　休みながら行く！

パティ：あれ？　何これ？　手の中の小石が熱い？　熱いんじゃない……なんだろこの感覚？

うわ！　どんどん近づいてくる……近づいて……手、離せない！！

レンダル：どうしたパティ！？　うお！？

ドラス／ヘイン役：うおお！？

パティM：爆発したように思えました。ものすごい音と、衝撃……。

私たちは身を縮めて砂埃（すなぼこり）と飛んでくる小石から自分たちを守ろうとしました。

ヴァン：到着。ルーシャ、着いたぜ。降りろよ。

ルーシャ：馬鹿馬鹿馬鹿、なんで全速力のまま着陸なのよ！　優し

く降りなさいよ！

ヴァン：弓や魔法の的になりたいのか？　もうしっかり注目されてんだ。降ろすぞ。

ってええ、首にしがみつくな！　折れる折れる！　……あー……

レンダル：……うぬ？

シュタイン：ぷ！　うぬ、だって。

あ、山賊の皆さ～ん、僕は武器の届かない上空から中立の立場で見物してますので

お気になさら……動いた！　速い！

レンダル：ふむ。魔術師に避(よ)けられたのは久しぶりだな……。

ヴァン：攻撃されることは予想してたからそこは何も言わねえよ。

けどよ、せめて口上(こうじょう)ぐらい聞けや！

あとルーシャ、避けるついでにわざと別々の場所に飛んだ。

すぐ近くにお前を斬れる奴らがいるからさっさと立ち直れ。

シュタイン：あらー？　ふたり別れちゃったよ。どっちを見ようかな……うん、両方見よう！

＊ルーシャの戦い＊

ルーシャ：立ち直った！！　ありがと！　待っててくれて！

ホッグ／レンダル役：はへ？　……誰？

ルーシャ：空飛ぶ大魔術師のルーシャリエ・ブリーズさんで～す！

シュタイン：わは！　飛び起きるなりあのテンション！
うわ、バンザイしたら紙吹雪まで！
なんだあれ……おもしろー。

ルーシャ：はい、あたしの手のひらにご注目。何にも持ってないよね？
ところがパンと打ち合わせると、トランプが四枚出てきまーす。

ホッグ／レンダル役：えーと……。

ルーシャ：どれがいい？　選んで！

ドラス／ヘイン役：捕まえ！？　げふぁ！！

シュタイン：後ろから忍び寄っての羽交い締めは失敗。
逆に鳩尾に強烈な肘！　ルーシャもできるじゃん。

ルーシャ：痴漢はんた～い。ワイヤーでぐるぐる巻きの刑に処～す！

ドラス／ヘイン役：うわ！　オレ、こんなでやられ……が！　首……し、死ぬ……！！

ルーシャ：逝ってらっしゃ～い。

ドラス／ヘイン役：シャレ……なんね……今回……オレ……モブ……か……う……。

シュタイン：ま、死ぬよね。まずはひとり。ヴァンより早いじゃん。

ルーシャ：ごめんね！　変質者に怖いことされかけちゃったから殺してきた！　さ、選んで！

ホッグ／レンダル役：う……うわあああああ！！！

ヘイン：ホッグ、どけ。うまいもんだな。

ルーシャ：え……わ、割り込みは、良くないんじゃ……ないかな……。

ヘイン：おっと、そうか。待ってくれ、話してみる。

シュタイン：あいつ……いつ近づいた？
魔法使いでもなさそうなのに、近づいたのに気づかなかった……
たぶんルーシャも……。

ヘイン：なあ、譲（ゆず）ってくれんか？　それとも死ぬか？

ホッグ／レンダル役：か、頭（かしら）にお任せしやす！

ヘイン：すまんな。ところでお嬢さん。

ルーシャ：な、何？

シュタイン：ああもう！　ルーシャは何してんだ！　あいつ背中向けてるってのに……。

あんな奴、不意打ちでもしなきゃ倒せないのに！

ヘイン：背中を向けている男の喉笛（のどぶえ）を掻（か）き切るという魔術を見たい。
できるかな？

シュタイン：読まれてる！　あ、ルーシャが行った！

ヘイン：おっと……

ルーシャ：しまっ！　ぐっ！！

シュタイン：よろけた振りして胸に肘打ち……え？　なんでルーシャ倒れたまま起きないの！？

ルーシャM：動けない……心臓、止まって……何、これ……？

ヘイン：残念だがお嬢さん……負けを認めることを勧めておく。

ホッグ／レンダル役：へ、へい！　縄でやすね！　縛るぜー、めちゃくちゃ縛るぜー！

ヘイン：次は向こうか。

ルーシャM：あれ？　急に楽に……あ……あの視線だ……目を合わせたら死ぬ……
そんな気がしてあたしは……。

ホッグ／レンダル役：これでよし。お？　まだあいつ生きてるのか。
レンダル相手にすごいな。でも、頭が行ったからもう終わったな。

ルーシャ：もう少しかかりそうだけど、終わってるのは確かね。あいつに負けはないもの。

ホッグ／レンダル役：おいおい……レンダル相手に苦戦する奴が、頭（かしら）に勝てるわけないだろ。

ルーシャ：あいつは万能魔術師だもん。どんな相手にだって負けない。負けること自体ができないのよ。

ホッグ／レンダル役：へぇ。そこまで言うなら賭けるかい？頭（かしら）が負けたらおいらが持ってるものぜんぶやるよ。おいらの命も含めていいぜ。

ルーシャ：乗った。ヴァンに賭ける。同じ条件でいいわ。

ふぁあ……あたし眠くなったから寝るね。勝負がついたら起こして。

ホッグ／レンダル役：はぁ！？　……あ、あいつ、そこまでの化け物か……？

シュタイン：本当に寝ちゃったよ。それにしても、何だろ、万能魔術師って？

＊ヴァンとレンダル＊

レンダル：ふざけた奴だがやるな若造。
無詠唱（むえいしょう）での瞬間転移（テレポート）を自分と女それぞれ
別座標（べつざひょう）を指定して使うか。
それもオレの剣を避けるついでに……。転旋撃（てんせんげき）！

ヴァン：おおっと！

シュタイン：背後へ振り返りながらのなぎ払いを、剣から逃げるようにして走って避けた。
ヴァンもなかなか慣れてるねえ。

レンダル：名乗っていいぞ、魔術師。

ヴァン：ヴァン・ディール。よろしくな、おっかねえおっさん。
で、あんたただの山賊じゃないだろ？

レンダル：ただのレンダル、家名は捨てた。ゴミクズまで身を持ち崩した元傭兵だよ。
槍の間合いだな。魔法戦士とか言う奴か？

ヴァン：バレた？　っても、オレの槍はおまけだけどね。
＜水よ集いて氷の矢を放て――氷矢（アイシクル・アロー）！＞

シュタイン：へぇ、ワンドを振ったら槍になった。持ち運びには便利だな。
お、氷矢（アイシクル・アロー）か。多いな。十八本かぁ。
うは、この軌道（きどう）、避けづら！！

レンダル：ふん、当たらんよ。

ヴァン：剣で魔法を弾くか。困るんだよなあ、そういう非常識なことされちゃ……。

レンダル：知るか！　闇疾風（やみはやて）！！

ヴァン：ちっ！

レンダル：また瞬間転移（テレポート）か。

パティM：どうしよう？　どうしよう？　レンダルが……あ、あの人、助けに来たんだよね？

でも、レンダルと戦って……夢と違うよ……レンダル！

ヴァン：＜印（いん）に宿りし破壊の力、光の槍よ、貫（つらぬ）け――光条（スティング・レイ）！！＞

レンダル：ちぃっ！

シュタイン：転がって避けたか。あれは剣じゃ防げないよね。あ！

流れ弾で他の山賊が死んだ！　……狙ってたの？

ヴァン：＜魔力の雨は降り注ぎ、光の矢となり敵を穿（うが）つ――光雨包囲箭（ライトアロー・レイン）！！！＞

パティ：レンダル！！

シュタイン：おお！　光の矢の応用か！　これ逃げ場ないぞ！

レンダル：見事だ！　だがオレは死なん！！

ヴァン：いや無理もう詰（つ）んでる。さよなら。

レンダル：うおおおおおお！！！

シュタイン：嘘！？　低い姿勢で光の矢を食らいながら突っ込んでいった！

ヴァン：やば！

レンダル：ぐぅっ！　影疾風（かげはやて）！！！

ヴァン：＜渡らしめよ短き橋――短距離転移（ブリンク）！＞

シュタイン：全力疾走からの逆袈裟（ぎゃくけさ）の斬撃（ざんげき）！

何とか避けたか。……え？

ヴァン：が……ぁぁ！！

パティM：魔術師さんが現れた場所、そこはちょうど山賊のリーダーがいたところでした。

リーダーは迷わないで剣を魔術師さんの肩に振り下ろしたんです。

血が……溢（あふ）れました……。

ヘイン：名乗らぬぞ。しかし、加減をしたことは言うべきだろうな。

シュタイン：飛んだ先に先回り？　ありえない……なんだあいつ……！？

剣が血まみれ……。終わったかな～？

パティ：え？　え？　……きゃあああ！！！

ヘイン：死ぬのが嫌なら消えろ。あの女ごとな。

レンダル：頭（かしら）……。

ヴァン：へへ……いきなり……一回死んじまったか。痛ってぇ……

手加減に、礼を言っとくぜ……。

シュタイン：……ふふ、そうこないとね。

＊作戦会議＊

ホッグ／レンダル役：おーい、姉ちゃん、終わったぞ。おーいってば。

ルーシャ：ふぁ～……。ああ、終わったの？

ホッグ／レンダル役：ああ。頭（かしら）の勝ちだ。

ルーシャ：ふーん……はぁ！？　な、何言って……え……

シュタイン：お、ルーシャが起きたか。目の前の奴は弱そうだけど、縛られてるからなあ。

あ、山賊に起こしてもらってるよ。美少女って得だねえ。

ルーシャM：あんなに血を出して……やっぱりあいつ、強い……どうしよう？

限りなく最悪に近い……でも、まだ間に合う……間に

合って！

ルーシャ：ちょっとヴァン・ディール！　万能魔術師！　聞こえてる！？

ヴァン：返事届かねえよ……万能魔術師って言うなよな。んなもん存在しねえよ。

……なあ爺さん、なんであんたここにいた？

転移（ブリンク）を目や気配で追うなんて無理なのに、なんで迷いもせずに

ここでオレを即座に攻撃できたんだ？

ヘイン：同じことをする奴を知っていた。それだけだ。

ヴァン：ああ……つまり、転移（ブリンク）で逃げまわる魔術師を追いかけて

殺したことがあるのか。それなら納得……痛（つ）つっ！

ルーシャ：ヴァン！　返事しなさい！　夕飯のおかず一品抜いてもいいの！？

ヴァン：うるせえな。大声出せねんだって……返事は……ああ、そっか。その手があった。

爺さん、ちょっと作戦会議のために呪文使ってもいいかい？

ヘイン：ふむ。ま、好きにしろ。だが待ちきれなくなったら殺すぞ。

ヴァン：怖い怖い。＜心をつなぐ架け橋よ、声ならざる声を届けよ

――心話（マインド・トーク）＞

ヴァンＭＴ（マインド・トーク）：ルーシャ、大声出せねえから心（マインド・トーク）

話使った。

で、何だよ？

ルーシャＭＴ：とりあえずすぐに死にそうってわけじゃなさそうね。なんで傷治さないの？

ヴァンＭＴ：治せばすぐ殺されるからだよ。
こいつ倒すには……そうだな、目一杯（めいっぱい）威力を強化した破壊系攻撃呪文使うしかなさそうだ。

ルーシャＭＴ：勝ち目、あるの？

ヴァンＭＴ：どうだろうな。気づかれて避けられたら終わるし、多分、反発されっから
ダメージも激減するだろうし。正直、分（ぶ）がいいとは言えないか。

ルーシャＭＴ：探してみてよ。全知（オムニサイエンス）で。

ヴァンＭＴ：全知（オムニサイエンス）か。そりゃ確かに気づかれないな。
けど何を探すってんだ？

ルーシャＭＴ：例えば、一撃であいつ殺せる武器とか。

ヴァンＭＴ：そんな都合のいいもんがそうそうあるかよ。
だがまあ、アイディア自体は悪くないな。探してみるか。

ルーシャＭＴ：あたしのためにがんばってね。

ヴァンMT：やる気を削ぐな。

ヴァンM：全知（オムニサイエンス）……。

全知／パティ役：全知術式（ぜんちじゅつしき）、情報初期化完了。キーワードを待つ。

シュタイン：へぇ……今使ったの全知（オムニサイエンス）だよねえ。

　詠唱もマナの減少もないってことは、固定化か。面白いことしてるなあ。

ヴァンM：目の前の戦士に有効そうな戦力になる道具。

　できるだけ近い場所。オレの所持品を除外。

全知／パティ役：該当（がいとう）1件。品目＝小妖精月（ピクシー・ムーン）。場所、金髪の少女の右手の中。

ヴァンM：な！　マジかよ！？　……へへ、これなら勝てる！

ヘイン：まだ終わらんか？

ヴァン：もうちょっと待ってくんねえかな？

ヘイン：お前の血が尽きるまでは待たんぞ。

ヴァン：へいへい。やべ、くらくらしやがる……。

ヴァンMT：ルーシャ、あったぜ。頼む。

ルーシャMT：ん。あたしに頼むってことは、盗む？　誰の何を？

ヴァンＭＴ：金髪の女の子が捕虜にいるだろ？　その右手に小さい丸い石があるはずだ。
すり盗ってくれ。

シュタイン：おお？　いつのまにルーシャ縄抜けしてたんだ？
んでブラックジャックで山賊を気絶させた。音も立てずに。けっこうやるね。

ルーシャＭＴ：えーと、いた。

パティＭ：私は急に後ろから肩を叩かれました。
振り向いたら……急に目の前が暗くなって、唇に暖かくて柔らかいものが……
え？　これって唇！？

シュタイン：おおおおおおい！　いきなりキスするか！？　必要あんのか！？
な、なんつーか、見てて萌えるものはあるけど……えええええ……

パティ：んむ！？　んー！

ルーシャ：ん、ごめんね。

シュタイン：抱きしめちゃってるよ。あ、声出させないためか。
あーあ、あの子、何が起こったか分からなくて固まってないか？
何がしたかったんだ？

ルーシャＭＴ：盗ったよ。投げていい？

ヴァンMT：口の中に投げてくれ。できるだろ？

ルーシャMT：簡単。よっと。

ヘイン：悪巧みは成功したな。そいつで傷が治るのか？

ヴァン：へへ、すぐわかりゅ。

＊決着＊

ヴァンM：無詠唱（むえいしょう）……

＜禁忌（きんき）の第三、我が求むるは速（すみ）やかな死、

敵の心臓を凍らせしめよ――心臓凍結（ハート・フリージング）！＞

頼むぜ小妖精月（ピクシー・ムーン）！！

シュタイン：何か使った。何したんだろ？　げ、心臓止めたのか！

反動怖くないのかよ！？

いや、それどころじゃなかったか。

ヴァン：んぺ。終わったぜ～！　って、痛てぇ！！！

＜活力よこの身に満ちよ、深き傷を癒す力となりて――重傷治癒（ヒール・シリアス）＞

レンダル：頭（かしら）！？　頭（かしら）をどうした！？

ヴァン：強かったなあ……悪りいが手加減してる余裕なくてな。殺しちまった。

レンダル：……してやられたか。だがどうやって殺した？　亡者の力でも使ったか？

ヴァン：そんな罰当たりな呪文は覚えてねえよ。あんたが降参するなら種明かしするぜ？

レンダル：将、敗れれば、軍が退く。負けを認める。ほら、武器も捨てたぞ。

ルーシャ：で、何をしたの？

ヴァン：呪文で心臓を凍らせた。

ルーシャ：ちょっと！
　それって高度すぎて普通に詠唱しないとたいてい失敗するって言ってたじゃない！

ヴァン：ああ、そういや言ったことあったなぁ。

シュタイン：ああ、面白かった。僕も降りて仲間入りしようっと。

続く

月と才能と賞金稼ぎ（♂４　♀３　指定被り２）（前書き）

「月と才能と賞金稼ぎ」――声劇双極魔術第三話
→
これがタイトルです！！

※１：このシリーズはボイドラサーチに登録していきますので、たくさんの方のご利用をお待ちしています。

※２：役表は台本の約説明の下に、コピペしてそのまま使える形で用意してあります。ご利用ください。

※３：台詞を言いやすく変更される方が割とおられますが、できたら元の台詞のニュアンスを正確に読み取ってからそういうアレンジはお願いしたく思います。その言い回しで書いている意味というのは多かれ少なかれあるはずですので。

面白いと思ってくれたら本編（小説版）も読んでみてください。
本編はこちら。
ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ２７５０ｗ／

※各種ご連絡は上のメニューの感想欄をお使いください。

月と才能と賞金稼ぎ（♂４　♀３　指定被り２）

「月と才能と賞金稼ぎ」――声劇双極魔術第三話

４３０台本。２５～３０分。

・登場人物

台詞数（※被りと合計した数）

←

３８　ヴァン……♂１７歳。本作の主人公。魔術師。生真面目だがときどき口調が乱暴に。理性と論理で動くタイプ。感情表現は苦手ではない。

３１　ルーシャ……♀１５歳。業師（わざし）で奇術師。ヴァンの相棒。業師とは盗賊に似た多技能者。

２２　シュタイン……♂２０代。謎の魔術師。戦力外。女性でもできるよ。解説者かおまいは。

３６　パティ……♀１２歳。奴隷として売られそうだった少女。

２２　ホッグ……♂３０代。元山賊雑魚。髭面小太りの小男。

４１　レンダル……♂４０代。元山賊サブリーダー。凄腕の元傭兵。実は貴族の六男。それゆえどこか堅い。

２４　モニカ……♀１３歳／１００歳？。ロリ声で婆さん口調。老魔女の幽霊が少女に取り

憑いている。

モブ（被り指定）
スージー／パティ役……♀２０代。賞金稼ぎ。ゼノンの恋人。
ゼノン／ホッグ役……♂２０代。賞金稼ぎ。スージーの恋人。

・役表

「月と才能と賞金稼ぎ」――声劇双極魔術第三話
ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ９９４１ｗ／５／

ヴァン♂……
ルーシャ♀……
シュタイン♂……
パティ／スージー♀…
レンダル♂……
ホッグ／ゼノン♂……
モニカ♀……

――――――――――――――――――――――――

＊荒れた山道＊

モニカ：驚いたのう。あの山賊頭（さんぞくがしら）を倒しよった。まだ若いが尋常（じんじょう）で

ない魔力の持ち主じゃ。
その上、無詠唱(むえいしょう)で心臓凍結(ハート・フリージング)のような高等呪文を……。
少し話をしておくかのう。

ヴァン：おいルーシャ、何をそんなに怒ってんだよ？

ルーシャ：怒らないでいられる？
あたしのことなんてすっかり忘れて分(ぶ)の悪い賭けをしたんでしょ？
ねえ渋い方のお兄さん、こいつ血だるまにするの手伝ってくれない？
殺してもいいから。

ヴァン：やめてくれ！　ちゃんと勝算はあったんだよ。九割方(きゅうわりがた)な。
この小石のおかげさ。

ルーシャ：あたしに盗ませた丸い白い石？　それが何だってのよ？

ヴァン：レンダルも聞きたいだろうし、持ち主を連れてきてくれよ。

ルーシャ：ああ、縄なら来るついでに切ってきたから、呼べば来るんじゃない？

ヴァン：……全知(ぜんち)によると、名前はパティって言うらしいな。おーい、パティ！　ちょっと来てくれ！

レンダル：……ためらっているな。オレが連れてこよう。

ヴァン：え？　いや、あんたじゃ怖がるだけだろ？

レンダル：少々事情があってな。オレが世話を焼いていたから懐(なつ)かれているんだ。
妙な真似はしないから安心しろ。

シュタイン：……いいの、あいつ信用して？

ヴァン：一応何かあったらすぐ飛べるようにしておくが、平気じゃないか？
レンダルって奴は変な小細工するような男には見えないしな。

シュタイン：言われてみれば、ヴァンとあいつが戦ってたときにあの子、
レンダルの名前を叫んでたね。

ヴァン：あの距離でよく聞こえたな。読音(リード・サウンド)か？

シュタイン：まあね。

モニカ：誰かと思ったらシュタインではないか。久しいのう。

シュタイン：へ？　……あ！　モニカ婆さん？

ルーシャ：婆さんって……どう見たってその子、あたしより年下でしょ？

モニカ：訳(わけ)あっての、この肉体を借りておる。儂(わし)自身は百を超える齢(よわい)じゃ。

ルーシャ：み、妙なのがまた増えた……。

ヴァン：もしかして、幽体離脱している間に肉体が死んだのか？

モニカ：左様。そしてそれを知ったとき、儂は死を受け入れられなんだ。

せねばならぬことがあったからのう。

それ以来、生者でも死者でも亡者でもない宙ぶらりんな存在となったんじゃ。

それはそうと、そろったのう。

レンダル：連れてきたぞ。

パティ：あの、あたしの石がどうしたの？

ヴァン：まずはお前さんに返すことからだ。これのおかげで何とか勝てたんだ。

ありがとさん。

パティ：これ、ただの石でしょ？

モニカ：む？　それは小妖精月ではないか！　ただの石などとんでもないぞえ！

ダイアモンドにも勝る価値がある魔宝石じゃ。

シュタイン：魔術師たちが見たら勝手に競りを始めかねないような希少品だよ。

パティ：……そんなわけないよ。あたしを売ったお金なんかで買えるわけないもん。

モニカ：売った者がそれの真の価値を知らなかったのじゃろ。
　それが証拠に首飾りにするため穴など開けておる。もったいないことじゃ。

ヴァン：魔術師が三人もいるとオレは説明する必要ないな。楽でいいや。

シュタイン：君が喋(しゃべ)らなくてどうするんだ。僕たちよりよく知っているだろう？
　あれについて。

ヴァン：まあなあ。使った感じ、だいぶ効果が落ちちまってる。穴がなかったらなあ。
　今さら言ってもしょうがないが。

ルーシャ：ねえ、効果って何なわけ？

モニカ：魔法の強制力(きょうせいりょく)や威力を激増(げきぞう)させるのじゃよ。
　攻撃的な呪文をかけられると、生物、亡者(もうじゃ)、魔法生物などは反発しようとするんじゃ。
　強制力が強いほど反発されにくくなる。

シュタイン：反発力は精神的な強さと生来(せいらい)の素質、
　それに戦闘経験や戦闘能力の高さで変わってくる。
　平たく言うと強い奴ほど反発力も強い。
　あの山賊リーダーの反発力はでたらめな強さだったから、
　ヴァンが普通に呪文を使ってもまず反発されてただろうね。

モニカ：反発されると呪文は効果を減（げん）じたり、まったく効果を現さなかったりするのじゃ。
じゃが、月の強制力上昇（きょうせいりょく）効果でその反発を打ち破った結果があれじゃ。
恐ろしい代物じゃって。

パティ：あのね、あたし、これ捨てたの。
森に投げたんだけど、今日いつのまにかあたしのとこに戻ってきたの。なんでだろ？

ヴァン：小妖精月（ピクシー・ムーン）は気に入った者を守ったりするらしい。
呪文を使ったって記録もあった。パティを気に入ったのさ、この月はな。

パティ：そっかぁ……。ちょっと怖かったけど、守ってくれてたんだね。ありがと。

ルーシャ：ねえ、紐（ひも）通してあげようか？　何色がいい？

パティ：あるの？　灰色もある？

ルーシャ：あるよ。ちょっと貸してね。はい、おしまい。

パティ：え、これ赤いよ？

ルーシャ：じゃあこれを手の中に入れて、灰色って念じながら開いてみて。

パティ：……灰色……灰色……えええ！？　灰色になってる……あ、ありがと。

ルーシャ：どういたしまして！

モニカ：なるほどのう。お主は奇術師か。

ヴァン：魔術師だそうだ。さて、少し道から外れて火でも起こすか。早いが夕飯にしようぜ。

＊山道近くの荒野＊

ホッグ：姐さん、終わりやした！

ヴァン：なあ、こいつ誰？

ルーシャ：ホッグ。あたしの子分。

ホッグ：へい。賭けに負けやして……おいらは姐さんの子分でやす。

ヴァン：何やってんだよ、オレが命がけで戦ってたときに……。

ルーシャ：あたしだって命を賭けたんだから文句言わない！

シュタイン：賭ける意味がずれてるし……。

あ！　ルーシャが怒ってたのってそのせいか！

ホッグ：あああの、賭けを提案したのはおいらでやす！　条件もおいらが決めやした！

モニカ：うむ、あっぱれじゃ。己のすべてを賭けた勝負。

そこにあるのは無限の信頼。見事見事。

ルーシャ：山賊の財布、ぜんぶ集め終わったのね。いくらになったの？

ホッグ：へい！　合わせて銀貨六百枚と少しになりやした！

ヴァン：思いのほか少ないな。誰だよ、金を持ってるはずだなんて言ったのは？

シュタイン：それなりに、としか言わなかったと思ったけどね。

ヴァン：まあ、ないよりマシか……。

レンダル：なんだ、お前たちは路銀をほとんど持たずに旅をしていたのか？

ルーシャ：ううん、むしろ一文無し。

ホッグ：一文無しでやすか！？

レンダル：……金を持たずに旅をできる神経が分からん。

シュタイン：どおりで稼ぐのに必死なわけだよね。

ルーシャ：ま、訳ありなんだけどね～。で、ホッグ、どんな食べ物ならあるの？

ホッグ：へい。この大袋の中身でやす！

レンダル：美味いものはないぞ。そんな優雅なもんじゃないんだ、山賊ってのは。

ルーシャ：……うわー。こんなの絶対食べないから。

ヴァン、ちょっと買い出し行ってきてよ。

ヴァン：言うと思ったぜ。けどよ、この人数に食わせるんだろ？荷物持ちがいるな。

ルーシャ：ホッグがやってくれるって。

ホッグ：も、持たせていただきやす！

シュタイン：僕も行くよ。自前で瞬間転移できるしね。

ヴァン：じゃ、適当に見繕って買ってくるぜ。シュタイン、最寄りの街はニーズだっけか？

詳しいなら先に飛んでくれよ。その後を追うから。

シュタイン：オッケー。

＜疾き脚より、強き翼より、遠きをつなぐ光の道よ――瞬間転移＞

パティ：行っちゃった……。

＊同じく、荒野＊

モニカM：気になるのう……なぜ月はこの娘を気に入ったのじゃ？

少し、調べてみるかのう。

パティ：モニカ、何してるの？　それ、トランプ？

モニカ：トランプの元になったカードじゃよ。占いをしようと思ってのう。

　　そうじゃ、パティ、占ってほしいことはないかえ？

パティ：すごい！　やってやって！　恋占いして欲しい！

モニカM：やはり……カードを出す前に気づいておった。何かあるのう。

　　マナに関係あることと見たが……。

レンダル：占いか？　そういえば牢でよくやっていたな。

モニカ：ヘインが死ぬ日がいつか占っておったんじゃよ。

レンダル：……頭（かしら）の名を誰から聞いた？

　　オレたちは頭としか呼んでいなかったはずだが……。

モニカ：もちろん、カードに聞いたのじゃ。

レンダルM：こいつ……本物の魔女か……。しかも一週間以上もそれを隠し続けたとは……。

ゼノン／ホッグ役：お、あったあった。ヘインの死体。間違いねーぜ。

スージー／パティ役：で、こっちがレンダルでしょ？　賞金二重取りだね！

ルーシャ：何のつもり？　賞金？　あたしたちの獲物なんだけど、どっちも。

ゼノン／ホッグ役：お、けっこういい女じゃん。

スージー／パティ役：ゼノン～？

ゼノン／ホッグ役：おいおい、名前呼ぶなって。冗談だよ。
お前の方が百万倍可愛いぜベイビー。

ルーシャ：うわ……うざ。

レンダル：賞金稼ぎか。タイミングがいいじゃないか。

ゼノン／ホッグ役：すごい情報屋と組んでるからな！
今行けばちょうどいい頃合(ころあ)いに着けるって言われたんだよ。

ルーシャ：……聞き出す必要がありそうね。

レンダル：悪いがそっちの都合は知らん。オレは男を殺す。

パティ：レンダル、剣持ってきたよ！

レンダル：ありがとよ。さて、始めようか。

ゼノン／ホッグ役：おおっと、このガキがどうなってもいいのか？
ん～？　切れちゃうぞ～？

レンダル：知らんな。

モニカ：<羽虫(はむし)を焦がせ、赤き結界(けっかい)――赤熱結界(ファイア・フィールド)>

ゼノン／ホッグ役：おわっちゃぁ！？　剣が……燃えやがった……！！

モニカ：うっとうしいから少し離れておれ。

ゼノン／ホッグ役：ガキぃぃぃぃ！！！

レンダル：フン！　……隙だらけだ。しかも胸当てもなしか。心臓くらい守っておけ。

ゼノン／ホッグ役：早えぇ……ガハッ！！

スージー／パティ役：ゼノン！！

ルーシャ：あんたも隙だらけ。両手もらい。

スージー／パティ役：うあぁぁぁ！　手の腱(けん)を……！

ルーシャ：死にたくなかったら協力してね。

スージー／パティ役：うう……。

レンダル：これからの質問に正直に答えれば命までは取らん。お前たちは賞金稼ぎだな？

スージー／パティ役：そうよ。横の連帯(れんたい)なんて持たない、ふたりだ

けの賞金稼ぎ……。

レンダル：すごい情報屋というのは何者だ？

スージー／パティ役：あたしたちにも分からない。
痩せてて背が小さくていつも顔を布やマスクで隠してて
子どもみたいな高い声で、自分のことはN（エヌ）と呼べって言うの。

ルーシャ：連絡方法は？

スージー／パティ役：接触はいつも向こうからの一方通行。
でも情報は当てになるから文句は言えない。
今回だけはいくら文句言っても言い足りないけどね……。

ルーシャ：高いの？　情報料。

スージー／パティ役：ふっかけられたり、ただでいいって言われたり、いろいろ。
今回はただだった。

ルーシャ：そいつの他の顧客（こきゃく）を知ってる？

スージー／パティ役：知るわけないでしょ。

レンダル：こんなところか。

ルーシャ：ヴァンが戻るまで一応置いとけば、

気づいたことを聞きなおしてくれるはず。

モニカM：何とこの配置は……信じがたい才能じゃ。

あの娘、魔術を教えれば歴史に名を残す大魔女(だいまじょ)となる……。

ヴァン：帰ったぜ。……なんだ、何かあったみたいだな？

ホッグ：死体が増えてやすねえ。

ルーシャ：賞金稼ぎが山賊リーダーの首を盗もうとしたの。

男のほうはレンダルが殺しちゃった。その片割れがこっち。

レンダル：正体不明の情報屋Nとか言うのにけしかけられたらしいが、

本当かどうかまでは知らん。

ヴァン：ふうん。まあ、あとで調べてみるからそいつ解放してやれよ。

あ、腕の腱(けん)を切ってあるのか。

＜欠(か)けたるを補(おぎな)い、健全な身体(からだ)に戻せ――機能治療(リペア・ボディ)＞

スージー／パティ役：……治った……どういうつもり？

ルーシャ：深い意味はないわよきっと。ほら、さっさと逃げたら？

スージー／パティ役：あの人を置いて帰れっていうの？

シュタイン：あの人？　ああ、この死体ね。

魔術で一時的に小さくするから持ち帰って好きにするといいよ。

＜虎を猫に、鷹(たか)を雀(すずめ)に、小さきものは無害(むがい)なり――小(リサイ)型化(ズ・スモール)＞

スージー／パティ役：……お礼は言わないわよ。

シュタイン：バイバイ。

＊焚き火を囲んで＊

ヴァン：さて、食い物も行き渡ったみたいだし、食うか。いただきまーす。

ホッグ：いただきやす！

ルーシャ：胡椒(こしょう)は？

ホッグ：姐(あね)さん、あいにく品切れだったんでやすよ。

シュタイン：どうしても欲しかったら僕の手持ちを分けてもいいよ。銀貨一枚で五振り分。

ルーシャ：心が広いこと。いらない。

シュタイン：あ、そう。ちなみに子供たちにはただで使わせてあげよう！

ルーシャ：何その差別？　あんたロリコン？

シュタイン：ロリコンは作（さく）……
いや、僕は単に小さい子に優しくして、
いろんな人のポイントを稼ごうとしてるだけ。

ホッグ：姐（あね）さんを差別したからポイント下がるんじゃねえでやすか？

シュタイン：ぐは！

ヴァン：レンダル、あんたらの親分だが、賞金が懸（か）かってたんだな。
名前がヘイン、金貨百枚だった。悪いがオレたちには必要な金だ。

レンダル：好きにしな。お前は勝者だ。その権利がある。
オレにも懸（か）かっていたろ？　オレの首も持っていけ。

ヴァン：あんたはオレに負けてない。賞金にも気づかなかったしな。

レンダル：……オレを生かしておくのか？
どうせまたろくでもない連中を見つけて山賊に戻るぞ？

ヴァン：戻るなよ。隣の国にでも逃げて、小さな街あたりで剣術の先生になりゃ、
だいたい四カ月くらいで食っていけるようになるだろ。

レンダル：オレみたいなクズが何を教えるって？　笑わせるな。

ヴァン：あんたの剣と魂は磨けばまだ光るだろ。いや、剣は十分に磨いてたな。

レンダル：魂が光るだぁ？　オレがどれだけ殺したと思ってる？
手遅れなんだよ。

ヴァン：あんたはパティの心を支えてたんだろ？　懐(なつ)き方で分かるぜ。

レンダル：……知らねえな。仮にそうだったとしても下心の仕業(しわざ)だろうよ。

ヴァン：ああもう、めんどうな奴だ。パティ、なんか言ってやれよ。

パティ：え？　えっと……あたし、レンダルが死ぬのは嫌。先生になったらたぶんもてるよ？

レンダル：何だそれは……。

パティ：レンダル優しいもん。あたしレンダル好きだよ。

レンダル：……ありがとよ。

ヴァン：生きてみる気になったかい？

シュタインM：……間(ま)を使うなあ。
渋いから杯(さかずき)を煽(あお)って酒を呑むだけでも様(さま)になる。
くそ、イケメン爆ぜろ！

レンダル：……この歳でやり直しか。まあ、どうせオレはここで死んだんだ。
あの魔法は痛かったぜ。どこにも逃げ道がなかった。

ヴァン：ああでもしなきゃ死んでたのはオレだ。つーか、傷は全部治したろ？
　それにあんた、自分は死なないとか言ってなかったか？
レンダル：傷なら治ってる。ありがとよ。そうさなぁ……。
モニカM：……色気のあるダンディが酒瓶を呷る……ええのう。
　hshsしてまうわい。
レンダル：死ぬ気がなかったのは、頭がいたからだ。
　戦場でオレは何度も負けたが、必ず血の一滴くらいは流させていたし、
　殺されないうちに逃げを打っていた。
ヴァン：傭兵だったな？
レンダル：まだ尻が青かった頃のことだがな。
　で、その青さがそろそろ抜けたって頃に、戦が終わった。
　オレは食いあぶれて追い剥ぎを始めて、ひと月しないうちに頭と闘るはめになった。
ヴァン：で、ぼろ負けしたわけだ。
パティM：いつもみたいなレンダルの昔話……不思議。
　レンダルはもう山賊じゃないんだよね……。
レンダル：ボロ負けってのも生ぬるい。頭はオレの攻撃をぜんぶ避けた。
　剣はだらりとさげたまま。一度も打ち合わせることさえできなかった。

そして、オレが姿勢を変える都度(つど)、一番狙われたくない隙を瞬時に見つめてた。
頭が剣を使ってたら百回は殺されてたな。
ヴァン：ヘインってのは何者なんだ？　竜族の血が混じってるとか言わないだろうな？
あ、もしかしてまだ生きてたりして……。
モニカ：たわけめ。しっかり死んでおるわ。
ホッグ：死んだふりなんて（もぐもぐ）せこい真似は（もぐもぐ）絶対しない人でやすよ。
ヴァン：なんであんなに手加減してたんだろうな？
モニカ：……気づいておったか？
ヴァン：気づくも何もないだろ。
オレが相談、準備、呪文使用するまでわざわざ待ったんだぜ？
レンダル：死んでもいいって思ったんじゃねえか？
つまらん、てのが口癖だった。
思いきり楽しめるなら死んでもいいって言ったこともあったしな。
頭(かしら)に代わって礼を言っとくか。ありがとよ。
ヴァン：あー、ああ……仲間を殺して礼を言われたのは初めてだ……。
まあいいや。なあ、子供たちはどうやって集めたんだ？

レンダル：パティだけは親に金持たせて買った。残りは攫(さら)った。魔術で送り届けるつもりか？

ヴァン：まさか。駅馬車に金を積んで届けさせる。

レンダル：パティはどうする？　親は同じことを繰り返しかねんぞ？

ヴァン：それだよなぁ。口減(くちべ)らしだろ？　どうしたもんか……。

レンダル：……パティ、オレの養女になる気はあるか？

パティ：養女って、レンダルがお父さんになるんでしょ？　……なった方がいい？

レンダル：なりたくないって言い方だな。

パティ：うん……。

レンダル：分かった。安全ってわけでもないしな。

モニカ：ヴァンよ、パティについて少し気になったんで占ってみたのじゃがの。

パティは魔術師として大成(たいせい)する器(うつわ)じゃ。

運命じゃのう、お主は大魔女(だいまじょ)を魔術に導く役割を担うことになったのじゃ。

ヴァン：は！？　ちょっと待て。全知(ぜんち)で確かめてみる。……うわ、マジか……。

レンダル：どうした？

パティ：あたしがまじゅつし？

ヴァン：マナを扱う才能が飛び抜けてるんだ。
　同じ呪文を使っても普通の魔術師の四分の一くらいしかマナを使わない。
　魔法に使うスタミナが四倍あるって言ったら分かりやすいかな？

パティ：あたし、すごい魔女になれるの？

シュタイン：保証付きだね。魔女になりたい？

パティ：なる！　すごい魔女になって、レンダルと結婚するの！

シュタイン：は？

モニカ：ぬ？

ヴァン：へ？

レンダル：ごふっ！

パティ：だってさ、すごい戦士のレンダルとすごい魔女になったあたしが一緒になったら、
　それってすごくすごいことでしょ？

ヴァン：た、確かに。普通にゆうしゃとか生まれそうだ。

レンダル：待て！　かなり待て！　どうしてそうなるふたりとも！？

シュタインM：イケメン＋リア充……死ね。死んでしまえ！　心臓（ハート・フ）凍結（リージング）！　……はぁ。

パティ：レンダルは嫌？

モニカ：レンダルよ。おなごを泣かすでないぞ？

レンダル：う……嫌では……むう……。

パティ：決まりだね！

ホッグ：ふー。ごちそうさまでやした。

ヴァン：ぷ、ぶはははは！　確かにごちそうさまだ！
　さて、支度（したく）したら街に向かうか！

ホッグ：へ？　おいら何か変なこと言いやしたか？

シュタイン：最高においしいとこを持ってった感じかな。

続く

ニーズ到着と謎の視線（♂４　♀４　指定被り１）（前書き）

「ニーズ到着と謎の視線」
→
これがタイトルです！！

※１：このシリーズはボイドラサーチに登録していきますので、たくさんの方のご利用をお待ちしています。

※２：役表は台本の約説明の下に、コピペしてそのまま使える形で用意してあります。ご利用ください。

※３：台詞を言いやすく変更する方が割とおられますが、できたら元の台詞のニュアンスを正確に読み取ってからそういうアレンジはお願いしたく思います。その言い回しで書いている意味というのは多かれ少なかれあるはずですので。

面白いと思ってくれたら本編（小説版）も読んでみてください。
本編はこちら。
ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ２７５０ｗ／

※各種ご連絡は上のメニューの感想欄をお使いください。

ニーズ到着と謎の視線（♂４　♀４　指定被り１）

「ニーズ到着と謎の視線」――声劇双極魔術第四話

４４０台本。２５分。

・登場人物

台詞数（※被りと合計した数）

←

３３　ヴァン……♂１７歳。本作の主人公。魔術師。生真面目だがときどき口調が乱暴に。理性と論理で動くタイプ。感情表現は苦手ではない。

２４　ルーシャ……♀１５歳。業師（わざし）で奇術師。ヴァンの相棒。業師とは盗賊に似た多技能者。

２２　パティ……♀１２歳。奴隷として売られそうな少女。

２３　ホッグ……♂３０代。元山賊雑魚。髭面小太りの小男。ルーシャの下僕。

２１　レンダル……♂４０代。元山賊サブリーダー。凄腕の元傭兵。実は貴族の六男。それゆえどこか堅い。

２１　シュタイン……♂２０代。謎の魔術師。戦力外。女性でもできるよ。解説者かおまいは。

２３　モニカ……♀１３歳／１００歳？。ロリ声で婆さん口調。老魔女の幽霊が少女に取り

憑いている。
１４　ローレル……♀２０代。賞金稼ぎの死体見分役。魔女。長台詞あり。

モブ（被り指定）
ボーイ／ローレル役……♂２０歳。ショタっぽく。女性がやること前提です。

・役表

「ニーズ到着と謎の視線」――声劇双極魔術第四話
ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ９９４１ｗ／６／

ヴァン♂……
ルーシャ♀……
パティ♀……
ホッグ♂……
レンダル♂……
シュタイン♂……
モニカ♀……
ローレル＆ボーイ♀…

――――――――――――――――――――――――

＊街へ続く道＊

ルーシャ：ねえ、いきなり大所帯になっちゃったけど、これからどうするの？

ヴァン：子供たちについてはパティ以外、
明日の駅馬車に頼むつもりだから今日はどこかの宿を取る。
オレたちももちろん同じ宿。あんまし変なとこじゃないところにしたいな。
トラブルがあると困る。ホッグはついてくるんだろ？
だったらしばらく一緒に行動することになるわな。
パティは魔術の勉強のためにどこかの魔術学校に預けたいとこだが、
あてが見つかるまでは連れて行く。レンダルとシュタイン、モニカはどうする？

シュタイン：君たちについていくのが現状じゃ一番、面白そうだからね。

レンダル：オレの扱いはどうなんだ？　捕虜ってわけでもなさそうだしな。
自由にしていいなら少なくとも今日はニーズの街に泊まる。
時期を見てよそへ移るが、やはり当てがないからな。
当分はお前たちに同行しようと思う。

モニカ：儂は好きなようにやらせてもらうとしようかの。ひとまずは同じ道じゃ。

ルーシャ：子どもが十人、大人が五人。
他人が見たら何の集団かと不思議に思うでしょうね。
馬鹿でかい棺桶もあるし。

ヴァン：聞かれたらありのままに答えりゃいいさ。
まあ、レンダルとモニカについてはそうもいかないが。

パティ：あ、ねえねえ、あれって街の壁じゃない？

シュタイン：そうだね。あー、やっと見えてきたか。
このペースだと閉門前（へいもんまえ）に滑りこみになりそうだね。

モニカ：余裕を持ってつきたければ集団転移（マス・テレポート）でも使えば良かろう？
儂（わし）は覚えておらぬがの。

シュタイン：僕だって覚えてないさ。軍属（ぐんぞく）の魔術師でもあるまいし。

ヴァン：同じく。間に合うんだからいいんじゃないか？

パティ：うわ～。おっきいね～。

シュタイン：明日半日くらい、子どもたちを観光させてもいいかもね。

ヴァン：そうだな。ホッグに頼むか。

ホッグ：お、おいらでやすか？

モニカ：お主、年長者（ねんちょうしゃ）に対しても遠慮がないのう。

ルーシャ：ああ、名家（めいけ）の生まれだから、いろんな人に指図（さしず）するのに慣れちゃってるのよ。

ヴァン：……痛いとこ突くよなまったく……。
オレが動けりゃ自分で連れていくけど、明日は無理なんだよ。
マナを回復させるために休養がいる。
モニカM：反動じゃの……。
シュタイン：はんどグボッ！！　な、殴らなくても……。
モニカ：ハンド？　なんじゃ、五月じゃというにハンドクリームがいるのかえ？
シュタイン：……最近、肌が乾くんだよ。
ホッグ：そうなんでやすか？
実はおいらも肌が乾きやすくて。
ナメクジクリームは効きやすよ。使うならおいらの……
シュタイン：金貨もらったって使わないから！
ルーシャ：ホッグ……ちょっと離れて歩いてね。
ホッグ：いえ、おいらが使ってるわけじゃないんで。ただ預かってただけでやすよ。
パティ：ねえねえ、あとちょっとだよ！　門まで競争しようよ！
モニカ：元気じゃのう。では競争じゃ！
シュタイン：負けないぞ～！

ヴァン：あ……。棺桶（かんおけ）に無関心（インディファレント）かけてもらうつもりが……オレにまだマナを使えってか……。

＊ニーズの街、大通り＊

パティ：街の中って暗いんだね。外はまだ明るかったのに、どの家も明かりつけてるよ！

レンダル：暗いのは外壁のせいだ。高い外壁が斜めの光を遮（さえぎ）っている。

パティは街は初めてか？

パティ：うーん、前にも来たことがあると思うんだけど、よく覚えてない。

レンダル：そうか。オレもニーズに入るのは久々だな。

そういえばヴァン、泊まる場所のあてはあるのか？

ヴァン：ふぁ～……。いや、いい宿を知ってたら教えて欲しいんだが。

宿代は高めでもいいから、でかくて清潔なとこがいいな。

誰か知らないか？

レンダル：高級宿の部類でもよければ、割と新しい宿がある。

三階建てのトンプソンズ・スイートだ。場所は……

ヴァン：ああ、場所はいいや。魔法の地図があるから名前さえ分かればあとは調べられる。

う……やべ、寝そう……。

ホッグ：どうしたんでやすか？　トンプソンズならおいらも場所を知ってやすよ。

ヴァン：そうか。ちょうどいいや。
レンダル、みんなを連れてトンプソンズに向かってくれ。
オレはホッグの案内で換金できる場所に行ってくる。
ルーシャ、汚れた子どもたちを嫌がったらチップを渡してくれ。
金貨五枚もありゃ十分だろ。……ふぁあ……。

ルーシャ：大丈夫？　まぶた重くなってるでしょ？

ホッグ：ほへ？　まだ日没（にちぼつ）ちょっと前でやすよ？

ヴァン：まあ、訳ありで。んじゃ、ホッグ、連れてってくれ。

ホッグ：へい。じゃあ行ってきやす。こっちでやすよ、旦那。

レンダル：オレたちも行くとしよう。ここからそう遠くない場所だ。

ルーシャ：……なんか意外。レンダルって不思議な人だね。

モニカM：む？　この展開は……もしや三角関係フラグかの？

レンダル：何がだ？

ルーシャ：ヴァンがあんなに簡単に信用するなんて。
あいつあれでかなり疑（うたぐ）り深いとこあるのよ。本人は否定

するけどね。

レンダル：そう言われてもな。オレはヴァンではないから何とも言えん。

パティ：レンダルの優しさが通じてるんだよ！　きっとそうだよ！

レンダル：優しさ、か……耳が痛い言葉だが、礼を言うところなのだろうな。……ありがとよ。

ルーシャ：そっか。ヴァンとどっか似てるんだ。あいつも苦手だもん。

素直に「ありがとう」って言うの。

パティ：ふーん。男の人って難しい？

ルーシャ：かもね。でも、女だってそれは同じかも。

レンダル：……っ！？

モニカ：む？　レンダルよ、どうした？

レンダル：いや……気のせいだ。

レンダルM：今のは……確かにこちらを見ていたな。しかも試されたか……。例のN（エヌ）か？

モニカ：（小声）儂（わし）も気づいておる。お主ひとりには負（お）わせぬよ。

パティ：わ、三階建て！　お城みたいだよ！　ねえねえ、宿ってあ

そこでしょ？

シュタイン：看板の文字はトンプソンズ・スイート。間違いないね。

ルーシャ：すごく高級感溢(こうきゅうかんあふ)れてるんだけど……金貨五枚でどうにかなるの？

モニカ：なるようになるじゃろ。入るぞよ。

シュタイン：どもー、団体客でーす！

ボーイ／ローレル役：あのぉ……申し訳ありませんが、当ホテルは品格(ひんかく)高い宿として、
お客様にも相応(そうおう)のご協力をいただいておりまして……

パティ：ひんかくってなーに？

ルーシャ：これチップ。その品格(ひんかく)だけど、長旅でちょっと汚れちゃったの。何とかならない？

ボーイ／ローレル役：……ええとですね、ならないこともないのですが……
少々、支度(したく)に手間(てま)がかかりまして……

モニカ：まどろっこしいのう。ぜんぶ出してしまえ。ほれ、金貨五枚じゃ。

ルーシャ：あ！　ちょっとモニカ！

ボーイ／ローレル役：はい！

当ホテルでは地下に大浴場がございまして、ただいま清掃中です。
すぐ済ませてご利用いただけるように手配いたしますので、
ロビーでしばし、おくつろぎください！

シュタイン：……結果オーライ？

パティ：ころっと変わったね。

レンダル：結局全額出してしまったな。

モニカ：ケチケチすることもなかろう。むぐむぐ……。
む、ここのジャーキーはなかなかの味じゃの。

パティ：あ！　モニカずるい！　レンダルの隣で！　しかもひとりだけ買い食い？

シュタイン：パティも食べたい？　銀貨五枚までなら使っていいよ。買いに行こう。

パティ：行く！

モニカ：（小声）まだついてきておるのう。それも狙いはお主のようじゃぞ。

レンダル：なるほど。それなら問題はない。

モニカ：悠長（ゆうちょう）な奴じゃ。あの娘を人質（ひとじち）に取られたりせぬよう気を配るべきじゃと思うがの。

レンダル：……警戒は任せる。対処はオレの仕事だ。

モニカ：ヴァンにも一応知らせておいたが、敵が動くのを待つかのう。

＊ロネンティ＊

ホッグ：着きやした。ここでやす。

ヴァン：なあ、本当にここなのか？

ホッグ：ここでやすよ。

ヴァン：パブ・ロネンティ――素敵な出会いをあなたに――。……なあ、本当にここなのか？

ホッグ：中に入れば分かりやす！　女子供の客はいやせん！
荒(あら)くれ者たちが常連の店でやすよ！　さ、入りやしょう！

ヴァン：何の偽装(ぎそう)なんだよ、あの看板は……結構(けっこう)古かったけど。

ホッグ：どうもどうも。マスター、久しぶりでやすね。

ヴァン：注目されまくり……魔術師と髭とどでかい棺桶(かんおけ)だもんな。
へぇ、確かに喧嘩(けんか)っ早(ばや)そうなのしかいねえな。

ホッグ：マスター、ちょっと換金したいんで奥に通してもらいやすよ。旦那、こっちでやす。

ヴァン：従業員用通路か。……客層の割に店内は綺麗だったな。内装はでたらめだったが。

ホッグ：ああ、ここのマスターは喧嘩の仲裁の達人ってんで有名なんでやすよ。

方法は腕ずくでやすが。

ローレル：あら、初めて見る顔ね。換金に来たのよね？

ヴァン：ああ。死体は棺桶の中だ。

ローレル：たまにいるから困るのよねぇ。首だけじゃなくて全身持ってきちゃう人。

街中で殺り合ったの？

ヴァン：そうじゃないんだが……首を落としたくないような奴だったんだよ。開けるぜ？

ローレル：開けてちょうだい。断っておくけど、念のために魔法で調べるわよ。

ヴァン：問題ねぇよ。……できるだけ急いでくれ。

ローレル：せっかちね。すぐ終わるから待ってて。……あら？

ホッグ：あ、久しぶりでやすね。

ローレル：おじさんのことは覚えてるわ！

バイパー・モリアの首を取ったのって、この魔術師さん

だったの？

ホッグ：いえ、違いやす……。

ヴァン：ムダ話しないで調べてくれないか？　連れを待たせてるんだ。

ホッグ：どうしたんでやすか？

ヴァン：（小声）モニカ婆さんから伝信を受け取った。視線を感じたらしい。

婆さんは気づかないふりをしたがレンダルが警戒を見せちまった。

早いとこ戻りたいんだ。

ローレル：慌てなくても呪文がやってるわ。カリカリしないで、美男子さん。

……ヘイン、山賊の首領、金貨百枚。本物に間違いないみたいね。

ヴァン：死体の偽装を看破するような呪文を無詠唱？　手抜きもいいとこじゃねえか？

ローレル：だっていちいち詠唱めんどくさいじゃない。

はい、この袋ひとつで金貨百枚……って、調べないの？

枚数違っても後から苦情は……

ヴァン：調べた。無詠唱で。じゃあな。

ホッグ：急ぎなんで失礼しやす。

ローレル：面白い子。また来てね。……ヴァンって言うんだ。ふうん。

＊店の外＊

ホッグ：まっくらでやすね。明かりをつけやしょう。

ヴァン：時間が惜しいから呪文を使う。＜暗き道を灯(とも)せ――灯火(ライト)＞

ホッグ：ぶ！！　ま、眩(まぶ)しいでやすよ！

ヴァン：……ちっ……あー、帰り道どっちだっけ？

＊ローレルの仕事部屋＊

ローレル：ええ、そうね。一応マークはしておくけど、まさかあんたとも因縁(いんねん)があるとはね。

どうするの？　殺す？　……ううん、ちょっともったいないかなって思っただけ。

……へぇ、女がいるの。

でも振り向かせる自信くらい……何よ、聞いてくれたっていいじゃない。

じゃあ、そのうちレンダルの首も届くのね？　分かった。ちゃんと用意しとくわ。賞金四十枚。少ない？　しょうがないじゃない。

連中、あまり派手に動かなかったから懸(か)かってる賞金も少ないのよ。

割りに合わないでしょうけど、あんたからすれば私怨(しえん)でしょ？

自分で殺らないの？　まあ、無理もないか。化け物よ、あんな連中。

あたしの名前、間違っても漏(も)らさないでね。じゃあね。

＊再び、トンプソンズ・スイート＊

ホッグ：旦那！　ヴァンの旦那！　着きやしたぜ！

ヴァン：あー……ああ、あんがとさん……頭がぼーっとする。眠い……。

ホッグ：もうでやすか？　まだ日が暮れてからそんなに経ってやせんぜ？

ボーイ／ローレル役：お客様方(きゃくさまがた)はおふたりですか？

お部屋は別々にいたしますか？

ヴァン：ええと、先に仲間と子どもたちが来てるはずなんだが……。

ボーイ／ローレル役：ああ、皆様ご入浴中です。

当ホテルでは地下に大浴場を設けておりまして。

ヴァン：全員じゃないが、しばらく厄介(やっかい)になる。

よろしくな。金を持ってきたから、手続きをしたいんだが……

ルーシャ：ヴァン！　遅かったじゃない。

パティ：ふぁ～、のぼせちゃった～……。

ホッグ：旦那はなんだかフラフラでやして、
　あちこちぶつかりそうなのを手を引いて連れてきたんで遅くなりやした。
　すいやせん。

ルーシャ：ああ、そうだったの。ところで、分け前ちょうだい！

ヴァン：今すぐか？

ルーシャ：銀貨二枚でいいから、早く！

パティ：えへへ～、お風呂屋さんでは絶対に買わないと駄目なもの、なーんだ？

ホッグ：……温泉まんじゅうとか？

パティ：違いまーす。

ヴァン：ほい。

ルーシャ：パティ、行くよ～！

パティ：うん！

ホッグ：……降りてっちゃいやしたね。何を買うんでやしょう？

モニカ：リスナーに考えてもらえばよかろ。

レンダル：遅かったな。

ヴァン：ふたりも温まったみたいだな。ところで、動きはあったか？

レンダル：まだだ。夜に仕掛けるつもりかも知れんな。

モニカ：気配は遠ざかったきりじゃ。宿を確かめたので日を改めるのやもしれぬのう。

レンダル：まったく……魔術ってのは便利なもんだな。

シュタイン：よく言うよね。魔術師の天敵みたいな剣士様の癖にさ。

ヴァン：……子どもたちが寝ついたら一部屋に集まってくれ。
　オレたちについて、あんまり気が進まない話だが、しておきたい。

ホッグ：気が進まないんでやすか？

モニカ：ホッグはたぶん、聞かんでも平気じゃろ。

シュタイン：内緒話（ないしょばなし）って僕、大好き！

＊数時間後、宿の一室＊

レンダル：おい、ヴァン、大丈夫なのか？　病気か何かか？

ルーシャ：単純に眠いのよ。
　だってあたしたち、夕方に飛んでお昼過ぎに着いちゃったんだもの。

シュタイン：何それ？　なぞなぞ？

ルーシャ：ヴァン、あたし話そうか？　あんた寝なさいよ。限界でしょ、どう見ても。

ヴァン：そうだな……台詞数の関係もあるし、
　悪りぃが寝るかはともかく横になっとくわ……。

シュタイン：分かった。ふたりは時間を超えてきたんだ！
　でも着いた時間が出発した時間より早かったから、長く起きてて眠い！
　どうこれ？

ルーシャ：惜しい。あたしたちね、別の世界から来たの。

モニカ：別の世界じゃと？

レンダル：世界に別も何もなかろう？

パティ：別の世界って、天国とか？　あ、あたし喋らない方がいい？

ルーシャ：ううん、どんどん質問していいからね。
　天国とか、そんなおおげさな違いじゃなくてね、微妙な違い。
　国の名前とか、地形とか、住んでる人が違うとか。
　言葉はなぜかどこも通じるんだけどね。

たぶん確定世界だからだってヴァンは言ってるけど。

パティ：かくていせかい？

ヴァン：確定世界についてはひとまず置いとこうぜ。
　ややこしい話がますますややこしくなるからな。

モニカ：ややこしい話が始まるわけじゃな？

シュタイン：話の腰を折って悪いけど、
　僕としちゃヴァンが固定化してる全知の呪文について
から聞きたいな。

モニカ：なんと！　全知を固定化じゃと！？

レンダル：どんどん分からなくなっていくな。固定化とは何だ？

シュタイン：ああ、ごめん。
　固定化ってのはね、呪文を詠唱もマナの減少もなしに
　無制限に使えるようにする儀式のこと。

パティ：えっと、それってすごいの？　モニカ？

モニカ：並の呪文ならすごいとは言わぬが、全知は超高難度呪文じ
や。
　この若さでそれを使えることからして驚きに値するんじゃ
が固定化までとは……。
　準備にかかる手間を考えると……正気とは思えぬ。

シュタイン：だよね。どう考えても何年がかりになるもんね。ヴァ

ンは何歳？

ルーシャ：十七。で、あたしは十五。大人っぽいってよく言われるけどね。

パティ：ねえ、どうして準備にそんな時間がかかるの？

シュタイン：呪文ってのはマナを消費して使う。これが魔法の常識。
　で、固定化はこの常識をひっくり返す。
　そのための準備を儀式でしておくんだけど、何が必要だと思う？

パティ：えーと、いっぱいのマナ？

シュタイン：あっさり正解。
　普通に考えても全知ほどの呪文の固定化に必要なマナを集めるには
　五年以上かかる。

ルーシャ：月の光からマナを効率よく集める方法があるらしくて……

モニカ：月光は豊富なマナの源じゃからの。
　じゃがそのための薬を使ったとて……どれだけ使うかにもよるが……
　あれは高価じゃから……。

ルーシャ：この頭でっかちは、その薬を簡単に増量する方法を発明したのよ。
　屋敷の屋根に馬鹿でかいガラス容器をいくつも置いて、
　だいたい半年で十分なマナを集めたんだって。

パティ：すごい！！

ヴァン：頭でっかちで悪かったな！

なんか知らんがその研究がやたら評判になったらしくてな。

王宮をはじめ、いろんなところから招聘（しょうへい）の手紙が届いたらしい。

すぐに旅に出てほとんど不在だったから最初の六通くらいしか

自分の手じゃ開けてないんだけどな。

しかし、へへっ、王室からの秘密集会招待状に偽装（ぎそう）した、

十三大呪（じゅうさんたいじゅ）を仕込んだ手紙の話を聞いたときは笑ったなあ。

レンダル：すまんが、別の世界がどうのという話との関係が見えてこないのだが。

ルーシャ：ああ、その少し後にね……あたしたちは最初の「世界渡（せかいわた）り」をしたの。

ちょっと長くなるけどちゃんと聞いてね……。

続く

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9941w/

声劇台本集：双極魔術の迷い人（これシリーズ名です。タイトル違います）

2011年11月16日12時15分発行